

653/154-1



64 さつぽろ雪まつり

緑丘

全国版

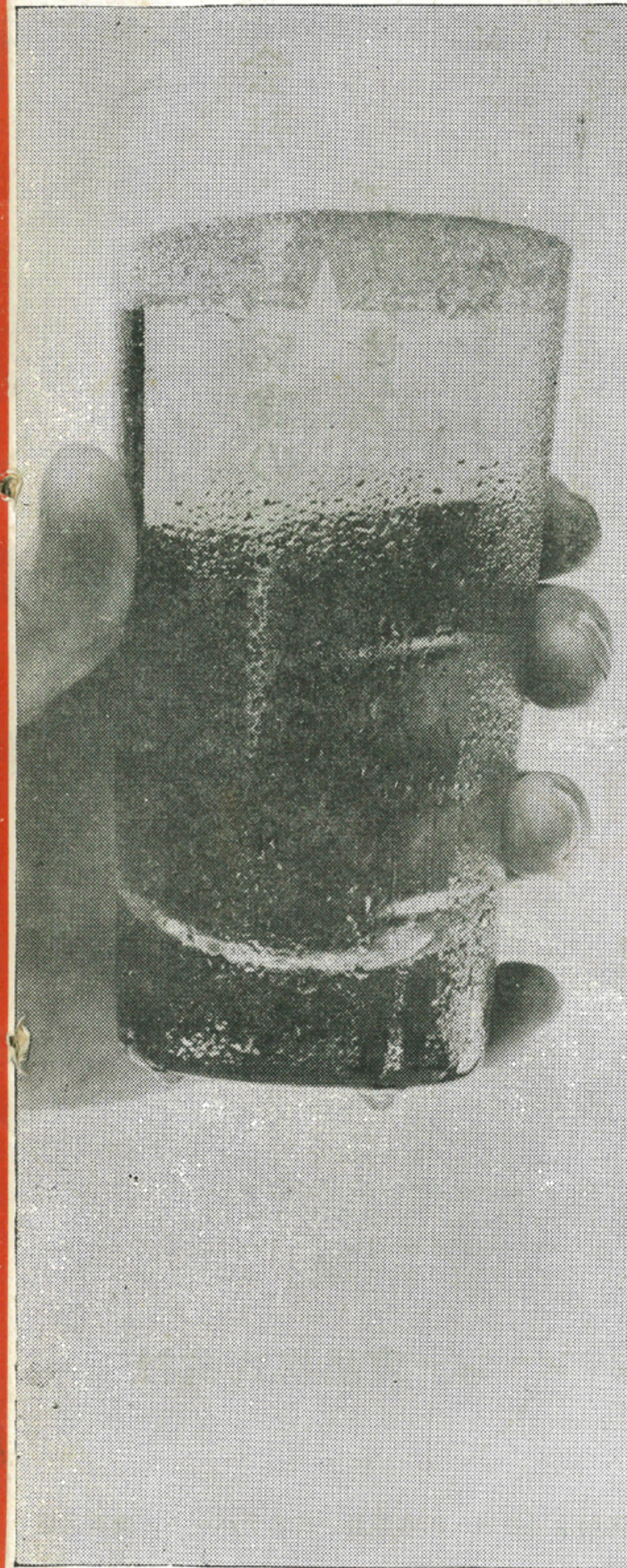
(通巻)No. 36号
(38年度 6号)

(編集責任者)
大阪市東区道修町三の一二
塩野義製菓株式会社内
藤目英三
(緑丘大阪支部)
大阪市北区梅田八番地
新阪急ビル8階
サッポロビール(株)内

本年も恒例のさつぽろ雪祭りが一月三十一日、二月一日、二日と催されました。この写真は大通会場です。今年は真駒内にも自衛隊諸君の雪像で賑いました。

木村慶七

(大一一)



うまさもでっかい
生ビール!

ミュンヘンにも、ミルウォーキーにも、こんな「でっかうまさ」はありません。ご存じ北海道名物「生ビールびん詰め」です。「瞬間殺菌法」により、今までのナマより保存がききます。普通ビールの三本以上みんなで飲んで三五〇円

サッポロ★
ジャイアンツ

KYC

最高の品質と 最高の技術を誇る

KYCの製品

- 各種 各種 各種 各種 各種 各種 各種 各種 各種 各種
- 各種 各種 各種 各種 各種 各種 各種 各種 各種 各種
- 各種 各種 各種 各種 各種 各種 各種 各種 各種 各種
- 各種 各種 各種 各種 各種 各種 各種 各種 各種 各種
- 各種 各種 各種 各種 各種 各種 各種 各種 各種 各種
- 各種 各種 各種 各種 各種 各種 各種 各種 各種 各種
- 各種 各種 各種 各種 各種 各種 各種 各種 各種 各種
- 各種 各種 各種 各種 各種 各種 各種 各種 各種 各種
- 各種 各種 各種 各種 各種 各種 各種 各種 各種 各種
- 各種 各種 各種 各種 各種 各種 各種 各種 各種 各種

総合建設機械のトップメーカー

KYC 光洋機械工業株式会社

取締役社長 奥村正美 (昭17年)

本社	大阪市北区南同心町一丁目二番地	電話大阪(351)3091~5(代表)
大阪支店	大阪市北区末広町一丁目二番地	電話大阪(928)6531~5
東京支店	東京都千代田区神田小川町二丁目三番地 (新小川町ビル)	電話東京(291)216・1309 3381~5
九州営業所	福岡市中浜口町一九番地	電話福岡(3)1841・2421
名古屋出張所	名古屋市東区堅代官町一四番地	電話名古屋(94)1315
仙台出張所	仙台市北二番丁八三番地	電話仙台(22)5247
札幌出張所	札幌市南十一条西八丁目五四一の二番地	電話札幌(5)9868
釧路出張所	釧路市大町一丁目四番地(大町ビル内)	電話釧路(2)1583
高松出張所	高松市塩上町一一八一番地	電話高松(3)4392
広島出張所	広島市松川町四の一番地	電話広島(61)7620
工場	寝屋川・守口・吹田・東京所	

三十九年度「緑丘」

申込受付開始!!



38年度に出版された「緑丘」

あなたの申込みは遅れがち
印刷部数を早く決めたい

この号をもって三十八年度の「緑丘」を終ります。

昭和三十三年創刊の「緑丘」は今回で丁度三十六号になりました。これから七年目に入ります。

三十八年度の特集は「浜林生之助追憶特集号」を発売し同窓各位の好評を博しました。いままでに「伴房次郎先生追悼号」「スキー特集号」

せんのので、御承知下さい。
三十九年度の御申込は印刷部数の決定をします都合上四月末まで切らせていただきます。

年六回 隔月発行(奇数月)
会費 五〇〇円(一年分)
振替用紙を同封しましたので御利用下さい。この用紙は編集部が三十五円の振替手数料を負担しております。

三十九年度分納入済の方
左の方は三十九年分をいただいております。振替なきように。

- (ア) 青木匡光
- (エ) 越前谷順治
- (オ) 越智直行、大野陽之助
- (カ) 兼子英太郎、亀井尚一、勝股一哉、梶川亨司
- (キ) 木内武之助、木村章三、紀野重仁
- (ク) 木立哲夫
- (ス) 鈴木啓介
- (タ) 高野憲一郎、高橋亘、高田甫
- (テ) 寺田八郎兵衛
- (チ) 中尾弘
- (フ) 藤原良静、細川信四郎、伏見滋夫
- (ヤ) 山田鳳蔵、矢野正郎、山本俊雄、八木康之介
- (ワ) 和田益太郎

希少価値を生む

浜林先生 特集号

一部二〇〇円で申込順に
浜林生之助先生追憶特集号を発売しますと、忽ち追加申込があり、学界、新聞社から送附依頼を受け寄贈いたしました。
「緑丘」申込のなかった方にはお知らせしませんでした。しかし部数も少なくなり、この機会に申込順に実費で配布いたします。(先着二〇名まで)品切れになりました折は、悪からず御諒承下さい。

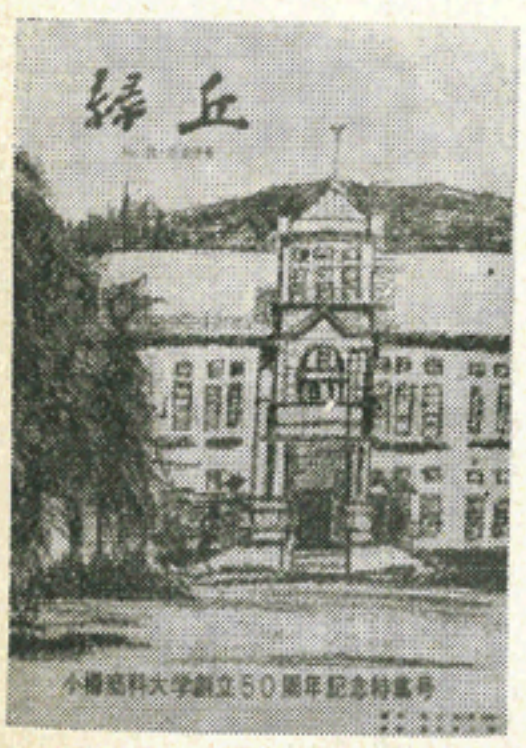
一部 二〇〇円(送料共)
(申込先)「緑丘」編集部

小樽商科大学

創立五〇周年記念

特集号残部僅少

小樽商科大学創立五〇周年記念特集号は残部在庫あります。希望者は編集部(大阪市東区道修町三丁目塩野製菓株式会社 藁目英三宛)へ申込まれたし。
一部 二〇〇円(送料共)



小樽商科大学創立五〇周年記念特集号

あなたの申込みは遅れがち
印刷部数を早く決めたい

この号をもって三十八年度の「緑丘」を終ります。

昭和三十三年創刊の「緑丘」は今回で丁度三十六号になりました。これから七年目に入ります。

三十八年度の特集は「浜林生之助追憶特集号」を発売し同窓各位の好評を博しました。いままでに「伴房次郎先生追悼号」「スキー特集号」

途中申込者には

バックナンバーは渡りません

次号から第一号が発刊されますが
申込いただいた人の分より印刷しま

浜林生之助先生追憶特集を讀んで

緑丘

浜林生之助先生
追憶特集号



浜林生之助君の面影

芥米地 英 録

「緑丘」第三十五号——「浜林先生追憶特集号」を通過して非常に感動しました。

願ひまで。

伊藤 整

(六一四)

濱林先生の追憶記どれも大変よく出来ていて、心のあた、まるお企てに敬服しました。

読後、感深し

稲垣 芳雄

(大六)

父の特集号 昨日拝受いたしました。大変な御手数だったことと存じますが見事な出来栄で、すっかり感激しました。ほんとうにありがとうございます。

2

まず最初に感謝したいのは、この特集号の企画をたてられた西川正巳さんと、ひどく手数のかかる編集を引きうけて見事に完成された藤目英三さんの御苦労と御努力です。

こういふ仕事は、やっておきたいという願ひがたとえあっても、だれにでもやれることではありません。真剣に身を入れ、心を打ちこんで進んで取り組む人がなければ実現できぬことです。私もこれに似た編集をやった経験がありますからお二人の御心労や御面倒がよくわかります。

濱林先生は私にとって未知の先生でありましたのに、この特集号に書いておられる多くの方々の回想記を通して、先生の経歴も、多面な性格も、すぐれた学殖も、数多い著作の価値も、一通り知ることができました。

三ページの「年譜」の上の写真は実によく先生のすべてを示しています。先生の風貌もいし、黒板に書かれた英字もまことに美しいと思えます。古関周蔵さん所蔵の先生の遺墨二つの筆跡もまた見事です。

あらゆる立場と角度から、みなさんが書いておられます。教師・学者としての浜林先生、人間としての浜林先生が、人それぞれの見方と感じ方で、敬愛の情をこめてしめじみ

浜さんが生きています。

西川 正巳

(六一五)

緑丘三十五号の至るところに浜さんが生きています。眼を閉じると、今も臉に浮ぶ浜さんの懐しい面ざしが五十四頁一杯に満ちみちている。何時の間にか、浜さんの生きられた御年令を越えて、還暦を目の前にする自分であるが、本誌を通じて浜さんを偲び、小樽を懐しむとき、何時しか心は二十代の昔に返る。どこを開いても、どの頁をのぞいても限りない懐しさで、青春の息吹と共に、曾ての小樽高商教授、浜林生之助先生の全貌を、我等の前に展開してくれ、この緑丘三十五号を、こんなに見事に作り上げてくれた、墓目編集長に、満腔の謝意を捧げる。是非、英文学者福原麟太郎先生にお目にかけたかと思ひますので、甚だ申しませんが、一部御送り下さいませぬか。

神沢 重治

(六一一)

緑丘浜林先生特集号拝受、早速全頁味讀いたしました。先生には、私は直接教えを受ける機会に恵まれませんでしたが、同門各位の玉稿を讀み、私の感じていた通りの、立派な学者であったことを知り、今更敬慕の念深きものがございます。

感動いたします。

もう一つ私の心を打ったのは、先生の御息の正夫氏が、すでに経済学博士になり、父先生と同じ緑丘の教授として、つとめておられることです。

私はこれをあたりまえのことと考えるわけにゆきません。正夫博士の御心情を知るよしありませんから、私の推量になりますが、父子二代にわたって引きつづき緑丘の教壇に立つてくださるということは、緑丘に對する無限の愛情の血が父から子へ流れて、こういう異例な事実を生んだのでないかと思ひます。

濱林先生逝かれて十七年の歳月を経た今日なお、先生に接し、先生に教えられた多数の人々の胸に、先生はあざやかに生きておられます。さらに、先生の生命の延長である御息が、緑丘に對する亡き父上の深い愛を継承され、父上の教え子の後進の教導に當っておられるわけです。ほんとうに稀有ともいえるありがたいことで、感謝の外ありません。

とにかく、この特集号は強い感銘を私の心に刻みつけてくれました。もう絶版になつていてはしようが、古本屋で先生の著書を探し出して、讀んでみたいと切に思ひます。先生が書かれたものを親しく讀ませていただいたら、さらに先生を見直し、先生に對して湧きおこっている尊敬の心もちが一層深まるにちがいないと思ひます。

(昭和三九・二・一〇)

語られていきます。ですから、この特集号を讀んだあと、私は浜林先生に会ったこともあり、教えていただいたこともあり、語りあったこともあり、書かれた本を讀んだことのあるような気持、すなわち、未知の方でなく、かなりくわしくさまざまな面から先生を知っているような感じを持ちました。

先生は明治二十年生れですから、私より十才年上です。今まで御存命であつても七十六才です。有能な方がずいぶん早く亡くなられたものだと、哀惜の念ひとしおです。

よくできる英語教師を探すと、役目をおびて中学校の授業を參觀して回られた時、芥米地先生が浜林先生の英才を見ぬかれたのです。人間の発見・才能の発掘をするためにはそれだけのすぐれた目がなければなりません。この点芥米地先生は立派な仕事をされたわけですね。というのは、その後の浜林先生の人生行路と運命が、たまたま芥米地先生に見出されたことにより大きく転換したからです。そして、実力のある浜林先生が緑丘の教授になったことによつて、多くの学生が大きな学恩を与えられたからです。

濱林先生は、緑丘に來られてからたくさんよい仕事をされました。印象に残る授業もされたようです。印

先生の人の柄や講義から深い感銘をうけ、先生を景仰し思慕する人の多いことは、この特集号を讀むとよくわかりますが、そういうよい先生というものはまれです。

濱林先生は、亡くなられて久しい今もなお、多くの人々の心の中に生きておられます。これは教師として至上の幸福です。緑丘の教授になられたことは、濱林先生により運命をもたらしたことになると思います。その運命の招き手は芥米地先生で、その功はたたえられるねうちがあります。

濱林先生がいろいろ本を書かれたり、そのすぐれた力量が広く伝わったりするにつれて、おそらく先生のところには、よい条件や地位を示して、先生をスカウトしようとする誘いの手があちこちから伸びてきたらうと想像されます。

しかし先生は、大正九年小樽に赴任されてから、昭和二十二年病没されるまで約三十年、緑丘から離れようとされなかつたのです。私に先生の心境はわかりません。ただ私に考えられるのは、どんな有利な条件や地位を示しての招きに對しても、先生は一切見向きもされず、小樽にふみとどまる決心を始終変えておられなかつたのだらうということです。

おそらく先生は、心から小樽を愛し、緑丘を愛しておられたに相違ありません。先生はその生涯の一番大事な壮年期のすべてを緑丘に捧げられたのです。この点、私はふかく先生のお心に

教育者としての浜林先生

追憶特集号を読み

板垣与一

(昭四)

「原稿は続々入って来る。一時は何頁の本が出来るのかと、嬉しいら悲しいやら」と、赤字にハラハラした編集子と目もくらまぬ、こんなに充実した内容の特集号ができたのが、私を見て、さぞ「緑丘」誌編集に一段と生き甲斐を感じておられることだろう。それにしても浜林先生の教えを受けた卒業生が、ほとんど各年次集子の努力もさることながら、先生の感化のいまさら大きいのに一種の感動を禁じえない。読後感として、下手な自分の感想を綴るよりも、教育者としての先生がいかに偉大であったかの片鱗を伝えるものとして、私に強く印象づけた教室における先生のおことばを、誌面から抜き書きすることにしたい。(カッコの中はページ数を示す)

△第一声▽

「君たちね、高商の入試に合格したからといって、英語の試験が出来たと思ったら、大間違いですぜ。」

(三五)

△おだてる▽

「君は勉強したらもつと出来る。素質はあるんだから怠けるなよ。」

(三九)

「唄は真似だから耳と勤がよくないと駄目だ。英語も同様で、唄のおぼえのわるいものは英語は上達せん。君に英語の天分ありと認め、今後ぼくの試験の点数を、二割増してやるよ。」

「本日の諸君の行動ハエスケープはまことにゆゆしき問題である。我々が学校の門をとじるか、諸君が丘を下るか、道は唯一つである。しかし諸君の父兄は、そのいづれをも望まないであろう。」

(二〇)

△訓戒▽

「日本語には元来「彼女」などという言葉はありませんよ。」(一三) 私は少々面がゆがったが勇をふるってこう訳した。「サムさん、びっくりするぢやないの?」...そうすると先生はこういわれた。

△皮肉▽

「君のは日本語に近いね。」(三一) 「馬鹿は皮肉を言えないものだよ。」

(一四)

△漫談▽

或る日、先生に漫談をおねだりしたところ、先生ニコニコして、それではと、

千早振る神代もきかず龍田川

からくれないに水くぐるとはの解釈をされ、力士龍田川が女にぶられて投身自殺したというお話を、おもしろ可笑しく話されて、ヤンヤの拍手喝采。

(三九)

△卒業生へ▽

「諸君は実社会に出て色々な壁に突き当ることは覚悟しなければならぬ。この壁を乗り越えて前進することが、生きることである。この壁は、然し常時あるものではない。このことより諸君は道具にならないように、特に注意して生きて行かねばならない。」

(三〇)

「金を見給え。金はなにも売込み

に狂奔せずに悠々と安眠に耽っているのに、人間共が勝手に血眼になって探し求める。これは金の値打ちが絶大だからである。それにしても金に埋れつばなしというのではないが、かすに時をもつてしなれば陽の目を浴びることはない。いつか君たちが発掘される時が来る。その時には君たちは、燦然と真価を発揮するのだ。」

(三二)

△ユーモア▽

「女房というものは、かぶつている帽子みたいなもので、新しいうちがハタ目もいいが、どうもしくりしない。あちこち損んで中古ぐらいになった頃、ちよとよくなるもんです。ハタから見ると、なぜあんな古い崩れた帽子をかぶつてるかと思わうわけだが、その頃に工合のよくなるものだ。覚えておきたまえ。」

(一一)

進藤真一

(昭五)

「緑丘」浜林先生追憶特集号が手に入った時、ハッと生けるが如き先生の懐しい御風貌を目前にし、いまなお先生が自分の傍で教えていて下さるような感じを与えられ、爾来毎日毎日特集号を繰返し読んで居ります。

大野先生退官特集号といふ、また浜林先生特集号といふ、こんな血の通った寄稿家の文章の御集成と御編集の御精進に最大の敬意を表する次第です。

私はまた、特に板垣与一教授の御寄稿に、当時中学三年の頃からの似たような英語についての感懐を新たに

にして、極めて同感でございます。英国、欧州留学から御帰朝になられてから、教わった昭和四年の九月から三月までの先生の講義が始まる前に、初めて先生をおたづねしてC・O・Dの改訂版に先生の一筆を戴いたものは、次のようなものであります。

All services ranks the same with God, whose puppets, best or worse, are we.

There is no first, nor last. R. Browning I. HAMABAYASHI Sept. 9, 1929

永い間、心のイメージであったことが現実の御集成になされた御骨折に大謝申し上げます。

大庭定男

(昭一七)

「緑丘」浜林先生追憶特集号有難うございました。

諸先生や諸先輩の、先生を敬慕された記事は誠にうれしく、私自身もかつて接した先生のあれこれ、懐しく思い出しております。教室での先生は、皮肉が多い方でしたが、多趣味、且つ株式などの理財の道にも通じていた事や、御息のお話では芸者の膝にようりかゝつていた写真などあったという事には、人間としての先生の面目躍如たるものあり、大変面白くよみました。

このような立派な特集号が出来ましたのも、先生の偉大さによるものであり、「ゲーテとの対話」を想起させるものがあります。エツカーマンの役目をされた編集部に対しお礼申し上げます。

このような特集は、後世唯一つの記録ともなりますので、手塚先生、西田先生等の故人や、存命中の諸先生についても刊行して下さい。

浜林先生之助追憶特集に寄せて

日本の歴史資料に

なくてはならぬもの

中野清一

(大一一)

「小樽商大緑丘会報」十五号と「緑丘」全国版三十五号とが、今私の机上にある。後者は緑丘大阪支部の発行、編集責任の労は、塩野義製薬資料室長であり、大阪副支部長の一人でもある墓目英三君(昭十一卒)がとつてくれた。

緑丘会報と「緑丘」全国版を共に無くてはならぬもの、そして両者共に楽しい、と思つている緑丘人は私一人だけではない。会報は母校の動静を伝えてくれる。「緑丘」は大阪支部発行とはいえ、全国にちらばる先輩・同輩・後輩の公私両面での生き生きとした消息をもたらす。最近流行の「人間関係論」流に言え、前者はフオーマルなつながりを固めるのに役立つし、後者はインフオーマルな間柄を深める支えになっている。

ありのままを書く、後者のお蔭で、恩師がたの最近の消息や、緑丘人として一頃親しかった人たちの旧交が復活したりした。週刊誌型の同誌がとり持つ縁で、設立をみた同窓会支部も相当にあるに違いない。

岡山支部がその一例だし、広島支部に至っては、同誌から送られてきた緑丘人リストの写し無しには、二十一名の参集は望めなかった。

同誌三十五号は、浜林先生之助先生追憶特集号になっている。次に母校の教壇に立ち、異彩を放つておられる浜林正夫教授の「父のことなど」を中心に、苦米地先生、椎名先生、小林先生、室谷先生がたが、心温まる追憶文をよせておられる。大正十一年卒の梶川先輩から昭和十九年卒の赤津君にかけて、年次別に三十四人の卒業生が思い出の記事を寄せている。

同誌の「大野純一先生退官記念特集」に次ぐ有難い特集である。敢て提灯持ちをするのだが、日本の英文学史上に不朽の光を放つ浜林先生の真面目が、心憎いほど隈無く伝えられている。あれだけの偉大な逸材を福島から発掘して来られた苦米地先生(同先生を迎え、加茂学長御夫妻、大野前学長御夫妻も臨席されての「長寿祝賀会」の模様もこの特集号を飾っている)の俊敏な御眼力にあらためて、敬服させられずにおれなかった。英文学には全く素人の私だし、偉そうなことは書く資格が無いが、私なりの必要があつてひそかに印刷文化史(こう書くと「家畜文化史」の大作を逸早く出版され、技術文化史の第一人者であられる加茂先生の御失笑を買つては思ふが)関係の資料を集めていた私に、若し不遜ながら大胆なことを言わして頂けるなら、日本の歴史資料の上で無くてはならぬものを緑丘大阪支部は世に贈つたと云つても過言では無い

と信じている。(一九六四・三・八)

小田島和夫

(昭三一)

毎号の意欲的な御編集、感服のほかありません。特に本特集号は寄稿者各位の御協力も見事だと思ひます。が編集子の御苦労がしのばれます。

小生在学中に、先生の御高名は聞いておりましたが、本号をよんで先生の人間の魅力と御遺徳に感じ入っている次第です。我が母校発展もかかる優秀な先生があつたればこそと、心強く思いますと同時に、我々同窓生の責任の重さを更に痛感致します。

紫竹 亜津視

(昭一一)

浜林先生追憶号受取りました。御苦勞の程改めて感謝します。なお余分がありましたら五部程送って貰えませんか。

梶川亨司

(大一一)

「浜林先生追憶号」をお送りいただき有難うございました。編集振りの素晴らしさに敬意を表心より表明いたします。それにしても普通号の二倍にもなつていたので、予算の方は間に合いましたか。気にかゝって居ります。

鈴木三七

(昭八)

「緑丘」三五号浜林先生の追憶号

入手、誠に立派なもの、感謝し乍ら通勤の車中でよんでいます。

牧野栄二

(昭一一)

浜林先生追憶特集号有難う存じました。早速むさぼるように読みました。掲載のお写真を見てみると、各執筆者が申しているように、色の浅黒い小さな口髭を蓄え、めつたに笑わぬ、それでいて皮肉屋で、滑稽味あり流暢な物静かな発音の先生がしみじみと想い出されました。

私「英語の背景」が研究社より出され、早速読ませて戴いて間もなくのこと、再度訪英のチャンスがありLondon市内のSt. Pancras駅よりSheffieldへ独りで行く事になり、混んだりして困るとの友人のアドバイスで、一等車に乗りました。古くさい六人宛のCompartment式のもので、一室に初老の黒い背広、八字鬚の紳士と、二人きりでした。その紳士が、浜さんそっくりで、旅のつれづれなるまゝに、話しかけようと思いましたが、新聞をよんでいて知らぬ顔です。へたに話しかけて、浜さんでないが「Why waste your breath?」とまでいかぬとも

「Do I know you?」なんて皮肉られました。私が突然列車ボーイが、早口で何んだか、どなり込んで来るや否や、件の紳士は脱兎の如く室を出て行き、暫らくして平然と何事もなかつた表情で、また戻って参りました。初め何んの事か解りませんでした。丁度朝の十時半頃で tea の時間で Cafeteria 車で、一杯やっ

て来た訳でした。物静かな紳士が、子供のよう飛び出し我れ先に並ぶ程、英国人は世界で有名な tea drinking nation であり、tea を切り離して英国人の日常生活は考えられないのを知り、苦笑しました。

どんな急ぎの用事があったとしても wait until I've had my tea" 浜さんの言われるように、Tea-making は一つの art にまで発達し通人は仲々やかましいことをいうのがうなづかれました。

文学をおして、英国の風土に、関心をよせ、英国民の環境、風俗習慣に通曉されておられた浜林先生を、私の英国旅行の思出と共に、次から次へと憶い出した次第です。

師弟の情に厚かった浜さん

加地 幸一 (大十二)

緑丘が此の度「浜さん追憶号」を出版したのは心温まる企てで、誠に嬉しく感謝に堪えない。浜さんとは関係浅からぬ私に、蛇足を加えることをお許し下さい。

浜さんは大正九年、私が小樽に入学と同時に教授として赴任せられ、在学中教えを受けたので、実に馴染深く、つづいて浜さんが昭和二年からの英国留学二年半余は、倫敦で一緒に過ごしたので、その思い出は尽きない。

何故緑丘の卒業生は、母校愛が人一倍強いと言う全国的評判が生れるのだろうか。それは先生と学生との個

人的接触が多いことから起るのではあるまいか。東京の私立大学の如く講義のマスプロや、教授が掛け持ち講義に忙しいところでは、強い母校愛の芽生えを期待するのは難しい。この点、学生と接する時間が比較的多い英語の授業が重要視されていた事と、寮制度が、相当の貢献をしたと思われる。「浜さん」は英語担当の舎監で、学生に与えた精神的な影響、緑丘の伝統に対する貢献は実に大きい。私も永年に亘り種々の事を教えられた。

浜さんは模範的な留学生で、当時倫敦では評判であった。先生は毎日毎日の予定を綿密に作り、二年半を一日も無駄にする事なく、後に悔を残さぬように行動されていた。浜さんの英文学史蹟巡礼は、英国の全土に及び、その熱心と考証の細かいことは、実に驚く許りであった。折柄欧州は世界大戦後のインフレに悩んだあとで、文部省の留学生には、円高を利用して、母国の窮屈な道義的生活から解放されて、放縦な生活を

する人が多く非難されていた時代であったので、先生の真面目さは良い対照であった。邦人の集まる日本料理屋等に行くと、之等の人々はよく浜さんの事を「小説に出て来る犬の跡を追って、スコットランドの山野を限なく跋渉した、変り者の学者」と等と酷評するのであった。

昭和二年の復活祭の休暇を利用して、浜さんと私はオックスフォードを訪れた。大学や周辺を見学して疲れた二人は、奇麗な小河のほとりの草の上に仰向けになって青空を仰ぎ、雲を眺めながら、夕方まで色々の

ことを語り合ったことを、昨日の事のように思い出す。浜さんと、こんなに純に、こんなにシンシリと語ったことはなかった。英国の田舎の良き、ここに生れた英文学の話は、当時商売人の暮きあつて居る倫敦で、仕事のむつかしさに昼夜頭を悩ましていた私に、別世界の開眼をしてくれた。なるほど高商時代には英文学を学んだ。しかし、それは語句の勉強に没頭し、範囲も狭く、英文学等と言えぬものではなかった。芝生のデジーを摘みながらの、浜さんと過ごした一日、その時の会話によって、私は英文学の洗礼を受けたような気がしたのである。この、私の英文学に対する興味と関心は、英独開戦と共に益々深まった。

仕事のため、引き揚げの機会を失し、爆撃下の倫敦に留る身となった私は、現世の煩しさをから逃れるために古典の研究に没頭した。これが三年も続いた。難解のシエークスピアは矢張り難解だった。デツキンスも判らないところだらけだった。英国人に尋ねても満足な回答を与えてくれな人はほとんど無かった。十六年も英国に住んだ私で、なおこの苦勞、あれだけの英文学をあれ程に読破し消化した浜さんは偉いと、いままらのように畏敬の念を抱いたのである。在英中、英国の学者の間に、浜さんの博学を賞讃する声が高く、もしも浜さんに名声欲があり、東京の大学に教鞭をとつていたら、彼は恐らく日本でもトップを競う英文学者として、その地位を確立し得たのではなかったらうか。

浜さんの強みの一つは、日本語の

文章に卓越して、英文の機微を巧みに意識で表現し得たことだと思ふ。直訳では、文学は、その味が出ない。英文で書いた著者と同じ位の国語の力がないと、本当の訳は生れて来ない。ニューアンスが大切である。当時倫敦で坪内逍遙の沙翁訳を読んで、私は、坪内逍遙が偉いか沙翁が偉いか、と感激した。少くも沙翁は坪内先生に感謝して居ると思う。浜さんの邦訳も見事だった。

浜さんは THOMAS HARDY や JOHN GALSWORTHY 等一流の英国文学者と、面接や手紙で交流していた。留学中に THOMAS HARDY が逝き、落胆して葬式に行つた。GALSWORTHY の近著の一節に FALSE TEETH と言う字があるが意味が判らない。辞書を引いてもない。思い切って直接出状して聞いたら「あなたは FALSE TEETH の厄介にならないうで済めるのは羨ましい。私の年令になると、始終之に悩まされ、大問題だ」というような返事が来た。どうやら入歯の事らしい。間もなく GALSWORTHY の重態が伝えられた。この手紙は彼の絶筆になるかも知れぬ、名もなき東洋の留学生に直接手紙をくれた GALSWORTHY の親切にはいままら感動したが同時にいままら感嘆したものを貰つたと、その手紙を大事にしていた。

浜さんの会話は、正確無比で、良く英国人の英語が、文法的に誤りだらけで、聞くに堪えぬと言うので、会話の途中で直してやっていたが、彼自身の英語は抑揚に乏しく、英国人には必ずしも聞き易くなかつた。

それでいて愉快な冗談や、辛辣な皮肉を連発するので、初めの頃は私に側についてハラハラしたことが多い。それは冗談や皮肉が仲々一回で通じない。冗談や皮肉と言うものは、二度も三度も説明したり敷衍したりしては、興が醒めるものである。あとでは大分上達し、あるいは経験で先方に判ること請合の奴だけをやるので百発百中、浜さんの WIT は有名になった。英国人の間の浜さんの PET NAME は、「HAMMA」だが「HAMMA は透き通る頭の持ち主だ」と言われたのを数回聞いた。

三十七年前の、浜さんのこんな英国での話が、未だ耳に残っている。ある英国の田舎の学校で、校長が生徒に声高らかに「ハムレット」は誰が書いたのか、と叫んだ。指さされた生徒は校長の剣幕に恐れをなして、急に泣き出し、「私が書いたのではありません」と嗚咽した。その生徒は帰宅して父親に、今日校長先生にひどく叱られた旨を伝えた。父親はどうしたのかと問うたので、生徒は「校長は「ハムレット」は誰が書いた、と私を指さしたので、私が書いたのでないから、私ではないと答えた」と言ったら、父親は色をなして「お前が書いたのなら正直に書いたと言いなさい」と怒ったと言うのである。英国人一般が如何に英文学に無智であるか、と言う諷刺で、浜さんの原作ではないが、浜さんの性格には打つてつけの皮肉で、良く英国人に披露していた。留学土産の一つだったかと思う。

私はその頃、悩みが多かつた。郷里では父が事業に失敗した後、病死

し、六人の弟妹が大学から中学に在学中であった。毎日の仕事も赴任忽々で大変であった。浜さんは「永い人生から見れば、いまの我慢と奮闘は、血となり肉となるだろう」と何時も慰めてくれた。実は、それにも増して毎日私を悩ませていた下宿での習慣があつた。この事も先生に相談した。当時の英国は、未だビクトリア王朝の習慣が残っていて、毎日の会社への通勤は、黒の上着、縞のスボン、それに山高帽と言う姿であつた。夕方帰宅すると、汚れないシャツやカラーに取り換え、必ず髭を剃り、頭髪を梳り食堂に行つて主婦に挨拶し、一同揃って祈禱をして食事をする習慣であつた。私は会社の責任者であつたので、早く帰ることが難かしく、退社の時間は不規則で、夕食は毎夕の如く滑り込みだつた。髭を剃らないで食堂に行く、昼着ていたシャツの儘で食卓につき、しかもそれが祈禱の済んだ直後の滑り込みであつたりしたから堪らな

い。初めは主婦に対する敬意が欠けると言う不満が、後では主婦に対する侮辱だと言う事に発展し、不機嫌を通り越して喧嘩になる。半ばヒステリックになつた婦人を相手に、英語で毎日喧嘩をする事は、そう簡単ではない。時々浜さんに応援に来て貰つた。しかし浜さんの英語も喧嘩用ではなかつたので、余り利き目はなく、「これでは君が可愛いそうだから、俺の下宿に來い」と言うことになり、早速浜さんの下宿に移つてしまつた。そこに四年いた。

終戦後のある冬の日、寒い小樽の生徒主事室の火鉢に、雨靴を掛けて

ポツポツと語る類のこけた浜さんと会つたのは久しぶりであった。進駐軍の通訳をさせられて、トラックで全道をとび廻つて体力が消耗したと言つていた。彼は私の顔も見ず、昔通りの抑揚のない低い声で、半ば自分自身に聞かせているかのようになつた。一つの人生哲学を教えてくれた。「若い者を信ぜよ、どんなに若い者が無茶をやるとしても限り無く無茶になると言う事はないものだ。寄宿舎が非常に穢くなる、そろそろ注意しようかと思つていると若い者の誰かが叫び出す「こんなに穢くてどうするんだ、豚小屋みたいだ。さあ掃除だ掃除だ」一人がやり出すと他が直ぐ之につづいて怒り奇麗になつてしまふ。寄宿舎が騒々しく仕様がなない。そろそろ注意しようかと思つていると若い者の誰かが「騒々しいぞ静かにせ、勉強も何も出来やしない」と怒鳴ると、全館が急に静かになる。私は永い間の舎監生活で、この自律の法則が半ば不滅のものだと言う事を体験した。これを矢鱈と干渉するから反撥する。若い者を信じて彼等に思う存分やらせる事だ。失敗すると彼等は考える。指導者は温い目で只見ていれば良いのだ」と。これ程強く私の胸を打つた教訓はない。戦後青年の無軌道ぶりを憂えて迷つていた私に、快刀乱麻を切る如き明快な指針を与えてくれた。爾來私の家庭でも会社でも、若い者に対する原則は浜さんの自律の法則を以てしている。

昭和二十三年春、正夫さんが一橋を二番と言う好成绩で卒業された。



Helena Rubinstein 化粧品

ヘレナ・ルビンスタインは、世界で最も格調の高い、最も權威のある化粧品として、特にハイソサエティでは評判の高い製品です。現在、巴里に二大研究所を構え、世界に十八の工場を持ち、各国で販売しております。この度、合併で日本進出が決定し、目下着々準備中であります。

ヘレナ ルビンスタイン株式会社

取締役社長 加地 幸一 (大十二)

東京都港区芝西久保桜川町六番地
電話 東京 (501) 2585 ~ 2588 番

異動

栄転

山本正年(昭八) 夕張線管理長(札幌鉄道講習所)
 糸魚川伍郎(昭四) 菱電運輸株式会社名古屋支店(三菱電機株式会社中津川製作所)
 名古屋市東区大幸町一丁目二〇番地
 五十嵐良一(昭一一) 北炭観光開発株式会社取締役
 石黒政夫(昭一四) 野村証券株式会社西部本部長(札幌支店長) 福岡市天神町四〇一
 西村保(昭二) 日本製鋼連事業担当常務(本店人事部長)
 田上東稻(大一一) 日魯漁業社長(副社長)
 桜庭康次(昭七) 日魯漁業取締役(生産部長)
 加藤英二(昭六) 北海道拓殖銀行庶務部長(横浜支店長)
 若山永太郎(昭一三) 丸嘉機械株式会社専務取締役(常務取締役)
 馬場正治(昭一一) 北海道拓殖銀行丸ノ内支店長(神戸支店長)
 東京千代田区丸ノ内二ノ十二(三菱電機ビル一階)
 百田嗣郎(大一一) 熊沢木材株式会社(中野梱包工業株式会社) 北海道紋別郡遠軽町二条通北一丁目

阿部保(昭八) 三井生命保険相互会社検査役室(三井生命総務局) 東京都千代田区大手町一ノ一
 中山勇策(昭二三) 東北ゴム株式会社大阪営業所所長代理
 大阪市南区塩町通三丁目四五
 進藤孝二(大一一) 大阪商船三井船舶株式会社(三井船舶社長)
 福田勇一郎(大一一) 朝日新聞業務担当(大阪、西部、名古屋本社) 代表取締役(大阪本社業務局長)
 藤川精三(昭一一) 松村組営業部長(営業部次長)
 中田乙一(昭七) 三菱地所常務取締役(取締役総務部長)

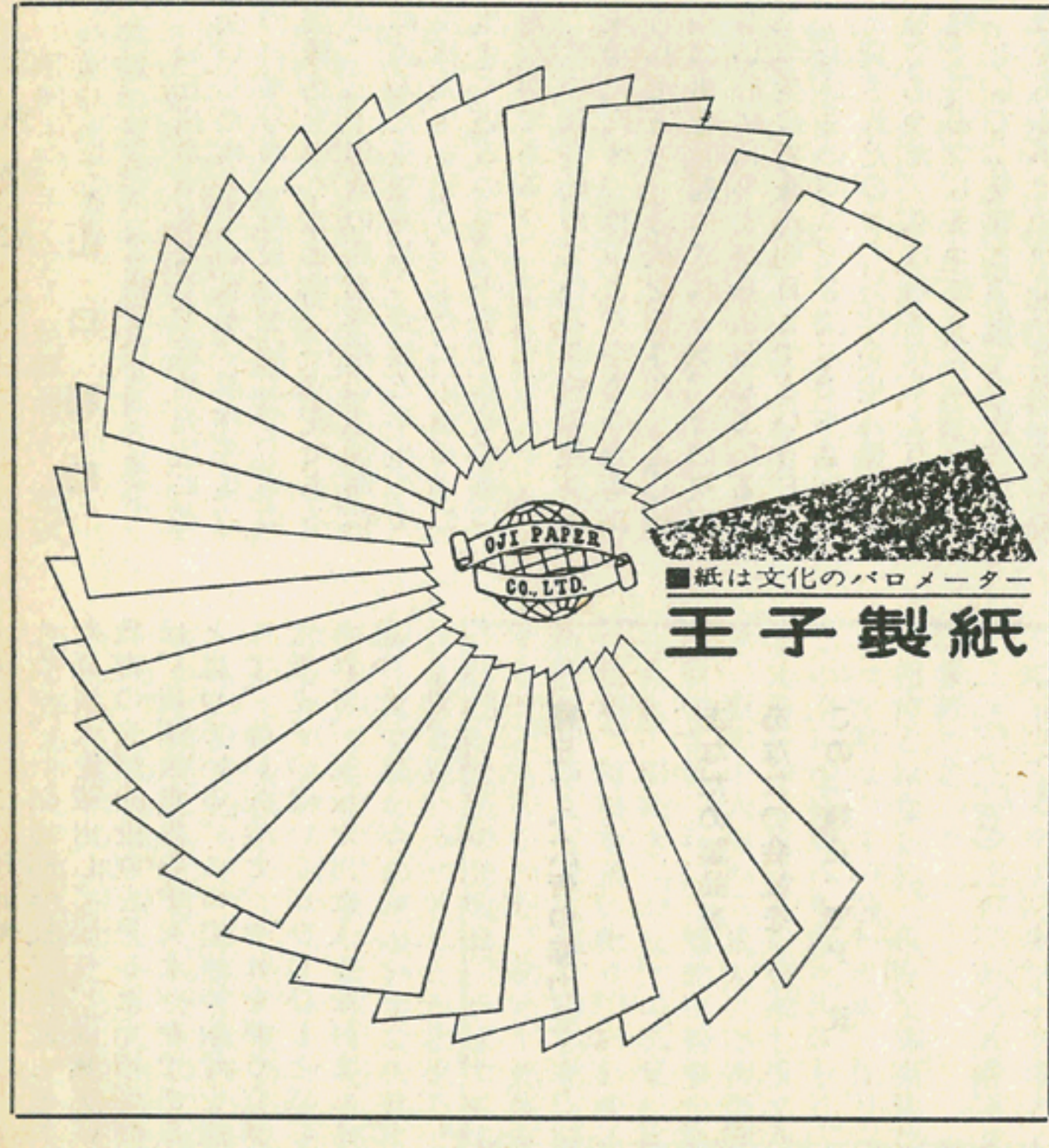
住所変更

馬場正治(昭一一) 東京都大田区雪ヶ谷一一九
 横山秀男(昭八) 札幌市南六条西十八丁目
 百田嗣郎(大一一) 北海道紋別郡遠軽町大通北二丁目遠軽クラブ

表紙写真募集

皆様の郷土色豊かな写真を表紙に採用させていただきます。短文を必要とします。余り長い文章ですと写真が小さくなりますので二〇行以内(一行十六字)に納めて下さい。横長より縦長の方を採用します。写真送附先は編集部へ

大阪市東区道修町三丁目 塩野義製菓 墓目英三宛
 原稿送附について
 ☆原稿は編集部へ送って下さい。
 ☆原稿用紙は一行十六字です。
 (市販の原稿用紙の上を四字あけて横に線を一本入れて下さい。そこから書くとき十六字です)
 寄稿御願
 宮地 邦 介
 拙稿「黒牟田焼」を墓目君に送り



ましたところ同君が態々来訪、私の愛品を写真に撮って呉れました。編集部としては同好の緑丘人の方々から陶磁器観賞に関する玉稿を誘わり、取纏めて、緑丘誌を飾り度いとのことです。私の雅拙な観賞が誇い水となって諸兄の御造詣深い陶磁器観を拝承することが出来ましたら緑丘人の多くが活動の余暇、こうした趣味に生きることも心のかてとなるでしょう。何卒御賛同の上、同好の士は振って御愛蔵の逸品の写真を添え編集部迄御寄稿願います。

楽我記

私の英語

菊之助 (大八)



浜林さんについて追憶を書くように頼まれましたが同氏とは一回の面識もなく、何も書くべきことを標合せませんので標題のような一文を書き、おわびいたします。
 私の英語の力はお世辞にも強いと申すことは出来ません。しかし、私のこれまでの職業や生活のうえで、英語は大そう役に立っています。水戸の中学時代には、数名の良い英語の先生がいましたが、私は国語・漢文・日本作文がすぎて、英語の成績はあまり良くありませんでした。小樽高商に入ってから中村先生、八木先生長谷川先生、マツキンソン先生などの授業をうけましたが、私が特に力をそそいだのは苦米地先生の商業英語即ちコンスポンデンスで、将来実業界に出る素養として大いに必要だと感じたからです。苦米地先生は、しきりに和文英訳の宿題を出されましたが、私は熱心に、これに努力し、成績も悪くなかつたと存じます。傍ら英語の大会には、七福神の洋行を劇化した演劇に出たり、アイヌの物語を英語で書いたものを暗誦して演壇に立つたりしたこともあり楽しい思い出となっています。
 高商を出てから東京のシンガミン会社に働いたことがあります

ここでは英語通信の素養が大そう役に立ちました。一ツ橋の大学では藤本幸太郎博士について統計学を専攻しましたが、報告や論文の作成上、英語とドイツ語とが役に立ったことは申すまでもありません。
 大正十二年の春に、創立三年目の名古屋高商に就任したときには、いきなり第三学年に統計学、第一学年(中学出及び商業出)に商業通論というの英国出版の原書ピットマン・シリーズの書物を講読するもので大そう苦心をいたしました。辞書を引いてもわからぬところは、高島先生や外人教師にたづねて教室に出るのでしたが、どこかに不準備なところがあると、得意になって質問や追及する学生がいて、大いに反省させられました。これらの学生の仲間には後年卒業してから出世し、代議士になったり、大学教授や博士になったり、大会社の社長になったりした連中も居りました。

私は名古屋高商に二十五年在職する間、統計学や交通論を担任し、著作も併せて十数冊に及びましたが、勉強の源泉はいつも、英米書やドイツ書でしたから、外国語の恩恵は、私の仕事のうえに計り知れないものがあります。特に昭和六年から同八年に至る在外研究の際には先ずニューヨークに半ヶ年滞在して学会に出席したり、研究所を訪問し欧州ではパリに一ヶ年滞在の本拠をおきましたが、英、独、伊、西その他の諸国も訪れましたので、英語を用いる機会には常にあったのです。渡辺龍聖先生の御指図により、昭和七年の夏、

ロンドンで開かれた国際商業教育会議に出席したとき(神戸大学の水谷一雄教授も同席)にも使用語は英語だけでした。
 戦後私は大信紡績という毛紡績の会社に招かれ、やがて監査役ともなり、十年ほどを経過しましたが、英語を用いる機会は多くありませんでした。しかしこの会社の重役や社員は相次いで外国に出張していきなると、外国語の必要を痛感したという話、屢々聞かされました。社長は大林信次といい、神戸商業出身の逸材ですが、バイアーなどの応接は大てい通訳を介してやっていましたので不自由はない様子でした。

昭和二十六年の秋から勤務した愛知大学(本校豊橋、分校名古屋)では前記の担当科目のほか商業学も受持つようになりましたが、科目の性質上英語の役立っていることは勿論です。商業学の時間には観光事業の説明にも数時間を充てることとしており、将来の日本のインテリは、日本の文化を良く理解するとともに、之を外国に紹介するために、語学特に英語の力を養わねばならぬことを力説しております。
 拙宅では長男と次男が共に旧制の名大経済学部を卒業し、銀行業界に働いていますが、英語の力のお蔭で長男は英本國へ半ヶ年出張視察の機会を与えられ、次男も三年まえからハワイに銀行業務研究のため在留中で、英語をマスターしようとして張切っております。家内は山梨の英和を出たので(村岡花子さんは旧師の一人)英語の発音は大そうよろしいので

すが、卒業後使用の機会が乏しく残念に思っています。その代り、近ごろは日本の芸能に打込み、謡曲や仕舞や鼓などに熱中しております。また東京に居る長男の妻は東京女子大の出身ですが、近所の子供たち約二十名のために毎週英語の教室を開いております。
 「附記」私は毎日英字新聞のジャパ・タイムズを読んでいますが、辞書を引くのが忙しく出陣し、辞書は行っていないらしいです。文字を制限されると個性の躍動した文章は出来ません。日本では国字の制限が行きすぎて、学生の学習能力が低下し憂慮に堪えません。岡倉由三郎氏が外国語の良い理解には日本語の深い理解がなければならぬと云われた言葉を、意義深思いたします。(愛知大学教授)

香港の七不思議
 木下 春 雄 (昭一一)
 (一) 香港で日本の精工舎の時計(MSD 並にMSD)は、デザインが素晴らしいので評判である。しかも正確な点においても、世界の一流といわれている時計と比較して、何等遜色がないというのが筆者を含めた使用者の言である。ああそれなのに値段が三分の一なのは不思議なことである。
 (二) 九竜半島と香港島をつなぐスターフェリーは、香港に来た人なら

一日と云うこと

葉隠道人 (六一)

必らずお世話になる乗物。朝のラツシユアワーでも決して押されることはないのにフェリー会社の英国人が一人一人乗客数を、ハンドメジャーで数えて制限しているのは東京の国電・市電と比べて不思議である。

(三) 九竜半島の中心街に平価市場(Bargain Centre)と云う百貨店がある。殆んど日本商品であるので九竜側の大丸だという人もいる。

(四) 香港にお化け騒動があったのは、ついこの夏であったが、出た場所が地産税務局で、供養したら出な

(五) 三五〇万人のうち一五〇万が避難民だ。いや二〇〇万人がそうだとはいわれている。彼らは一粒の米も持たずに渡ってきたのである。

(六) SILKの家元は日本だと思つていたが、香港では日本のSILKの広告も見ないし、表示も見当らず、タイシルクが巾をかきかしているのは不思議である。

業我記

松下電器の松下幸之助さんが、メイコのごめんあそばせの正月対談の席上「私を人様が偉い人だと云われますが、私自身は少しも偉いとは思っておりません。只申上げられることは、若し私が成功者で云うことであれば、それは一日一日を一生懸命やつた蓄積と云えましょう」と話されました。

い。それがやがて心の迷いともなり生活の苦しさにもつながるものとなりましょう。グリコの江崎社長さんの座右の銘の一節に、仕事を道楽化すとありま

論こゝに云う成功とは人夫々が就いている仕事を仕遂げると云う意味で俗に云うあの人は成功者だと云う意味ではありませんが、少なくとも口

故西村久蔵氏(六一〇)

の思い出

木下章三 (昭三三)

と云う歌の意味が本当にわかるような気が致します。

若山君のところ立寄つたら、正月の挨拶もそつちのけで「西村久蔵先輩を知つてるか」と眼を輝している。「知つているのなんのといつて僕は札幌商業の生徒で、まる四年間修身と商業、算術を教わつたばかりでなくキリスト教の洗礼を受けるの

殺した罪人に外ならないことを白状しなければならぬ。

西村先生は高級洋生菓子に代る大衆洋生菓子の製造販売で北海道一

先生の家業は洋生菓子の店だから喫茶店を兼営している。当時未成年者は、そういう店に入りにできなかつたから、修身の先生のくせに風俗

業我記

営業を営むのはどうかと思う、といふ非難も出る。だが生徒の気は素晴らしかった。それは、世相をなじり、正義のなんたるから烈々として説く、胸のすくような雄弁があつたからである。

のだと思ふようになった。品行方正優等生グループという孤高のエリート意識、そんなものが集団の繁栄のためにどれだけのプラスをもたらす

る。そうすると自分の体が坐つたまゝ宙に浮いて部屋中飛んである位とも彼はいつた。そのときから自分はキリストと共に在るという自信が

緑丘
余話

新聞紙上を

賑わす御両人



術畑の小林小一郎社長が定年で相談役に退き、経理畑出の田上氏が副社長から社長に昇格する。池崎勇専務の副社長就任とともに、日魯では田上・池崎ラインという旧高商出身の事務屋支配が実現するわけだが、かねてから予定されていた。順当な人事」というのが内外の評判。

大正十二年、小樽高商(小樽商大の前身)卒業と同時に水産業界にはいり、カニカン詰め共販会社を経て同十五年日魯漁業入社、函館支社経理部長、翌二十二年取締役として、敗戦で大きな痛手を受けた日魯漁業の再建に努力した。その後北洋再開の二十七年に常務、三十一年専務、三十五年副社長とその人柄と同様、着実な道をたどっている。同じ経理畑出身でも昨年秋に日本水産社長となった中井春雄氏の横紙破りの豪放型とは対照的に、いかにもしにせのだんな型だが、その仕事の手堅さは業界でも定評があり、水産庁筋でもその「実力」を認めている。

「海・陸部門とも従来とくに変わった大投資をするつもりはない。しかし、合理的な計画に基づく漁獲、運搬、販売と陸上部門の業績向上のための手直しには力を入れた」と手堅い抱負を語っているが、池崎新副社長、平野専務など子飼いの日魯経営陣のトップに立つてどのような手腕を示すか期待される。事務屋とはいっても酒は自称「漁師並み」基はたつき上げの實力五段、最近は付き合ひゴルフに忙しい。高知県出身、六十二歳。(北海道新聞より)

読者だより

☆アメリカカ大学協会の招きを受けて三月八日から二〇日まで、イタリアの国境近くのコモ湖畔ベラジオで開催される「ナショナルリズムとディベロプメント」国際会議に出席、そのあとフィレンツェ郊外サン・カシアーノのマキアヴェリが君主論を書いた山荘を訪れ、カラチ、ニユデリ、ラングリン、パンコック、サイゴン、マニラなど、四週間の視察旅行をして四月十六日帰国いたします。板垣与一(昭四)

☆東京、赤羽高校長の本合利八郎君が、二月十六日―二十三日、タイ国バンコックで開かれる、WCOTP(世界教育者会議)アジア総会に、東京都代表二人の一人として、間もなく出かけます。中野清一(大一一五)

緑丘通信

☆去る一月二十二日大阪・御堂会館ホールで「日本の文学」刊行記念文芸講演の夕が催され、伊藤整氏(大一一四)が「近代日本と文学」と題し講演のトツプを承る。文学の面白さを稲垣尼穂、斎藤緑雨に

おめでとう 田上東稲氏(大一二)は日魯漁業社長に 進藤孝二氏(大一一四)は大阪商船三井船舶社長に

田上東稲氏(大一二)は日魯漁業社長に、進藤孝二氏(大一一四)は大阪商船三井船舶社長に夫々御就任になった。既に新聞紙上や週刊誌にも発表された。田上東稲氏は「日本の水産業界をめぐる国際環境は、こしもきびしいだろうが、弱気になることは、まったくない。未利用の漁業資源はまだ多く、とくに深海魚田の開発に目を向けなければならぬ」と物静かに語ることは四十年来漁業会社の本部を生き抜いてきた自信に裏付けられている。三十日の総会で水産講習所出身の技

大阪商船三井船舶社長に決定した進藤孝二氏

海運集約によって大阪商船と三井船舶が合併し、四月から日本一の大海運会社が発足する。支配船腹量は二百三十万重量トン。世界一のP・O社(英国)に迫る「マンモス」会社だ。その社長にすわるのが進藤氏。「大阪商船との合併は海運界の合理化にもっともかなったものと思負している、日本郵船とは、いい意味で大いに競争したい。」

三井、住友という、系列が違った有力会社同士の合併は前例がなく、社風も三井が豪放、商船が温和というように対照的だ。まとめ役の進藤氏にとって社内の融和は最大の課題だが「過去のことにとらわれず、将来」という共通の場で協力体制をしいてゆきたい」と、成算がありそうだ。「海運会社はいよいよ一本立ちするときに来た。そのためにはまず経営面を引締める必要がある」という進藤氏は、新会社の構想第一弾として副社長四人制を打出した。「海運会社には世間知らずの専門家が過ぎる」という持論から、副社長は全員「無任所大臣」とし、社長ともにも経営全般を勉強してもらうことにした。

ご本人は「間口」の広いことでは海運界随一の定評がある。経団連、日経連各常任理事として財界の顔は広く、政界とのつながりも末広会(池田系)や春秋会(河野系)関係の会合に参加するなど多方面におよんでいる。「八方美人」の批判もないではないが「実業家は特定の派閥に片寄るべきではない。むしろ政界で

の派閥をなくすべきだ」といっている。

三十七年五月から一年間、日本船主協会会長をつとめ、持前の政治力で海運集約に火をつけた。「合併には業界内部から強い抵抗があったが会長一任の線で強引に押切った。放っておいたら戦争中のように国家が船をつくる事態になったかも知れない」と当時を回顧する。

大正十四年旧小樽高商を卒業して三井物産にはいり、船舶部独立とともに三井船舶に移った。社長就任は三十五年。兵庫県出身、六十一歳。(朝日新聞より)

母校英語部

The Ryokkyutes

第二号を発刊

小樽商大では二月十日ATHE R YOKKYUTES V(緑丘人)の第二号を発刊した。英語部の機関紙である。タブロイド判四ページの英字紙であって、近く完成する学生会館の写真を入れ、大学の未来像を

東京OBメンバーを発表

第二軍も編成中

第一戦は五月中旬?

東京支部では事務局長神田正英氏(大一一五)と伏見滋夫氏(昭一〇)との間で緑丘野球OB部の編成について協議し、そのナインが発表され



語り、室谷賢治郎元教授は Don't Forget Your Duty を語る。Hokkaido E.s.s. Union Formed と題して藤、北星、札短、北大、北海、学大などが集まる ESS 連盟結成の動きを伝える。

例をとり、会場一杯の聴衆を魅了した。

☆緑丘会大阪支部では十日会で「同族意識」を大いに發揮、勤務会社のP・R大会を開き、会員夫々自社製品、パンフレット、リーフレットを持ち寄り、互に宣伝に努めた。

☆小樽商大今年度の就職状況を発表

▽卒業予定者一八〇名▽就職決定者一六七名▽進学者四名▽教員志望者四名▽自営従事者一名▽自処四名

☆丸善書店の最新洋書案内の十二月号の裏に Harrap's Standard German & English Dictionary

の広告があり、その編集者が私の知り度いと思つている Trevor Jones (大正年間の中頃、緑丘学園で教鞭をとって居った)ではなからうか。同姓同名なので。室谷賢治郎

大川原 雄三(昭五)
山口恒四郎(昭一一)
松川 誠治(昭一一)
川崎 要(昭一三)
大野陽之助(昭一三)

何れもオチイチャン・オトウチャン・チームで、その活躍を期待されるが、第二軍の編成も準備中でありその世話人を探している。緑丘会東京支部神田事務局長へ名乗り出てほしいと。
なおオチイチャン・オトウチャンチームの第一戦は五月中旬、新卒業生歓迎会をかねて展開される。球場は目下物色中で決定次第連絡する。

監督 小貫 武(昭一二)
投手 神田 正英(大一一五)
捕手 四谷 勇(昭一〇)
一塁手 伏見 滋夫(昭一〇)
二塁手 神田 正英(大一一五)
三塁手 久米 忠彦(昭九)
遊撃手 青塚 寛二(昭一三)
外野手 木内武之助(昭一二)
福田 次助(昭一三)
種田 憲三(昭一三)

まんびつ五人集

次回

西野嘉一郎(大一一五)
藤田居元三(大八)
岡田政次郎(昭二)
福地栄貞雄(昭一四)
角谷栄作(昭一一)

理論と実際

大平善梧

(大一一五)
(東京支部)

理論と実際の調和という問題は、解決の困難な人生の課題である。理論だけでこの複雑な世の中を割り切れるならば、もっとすっきりとした人生観が打ちたてられるだろう。だが象牙の塔に閉じこもって、観念の遊戯に耽っているわけに行かないとすれば、広く世間に飛びだして、社会の良識の洗礼を受け、謙虚に事実に学ぶ心掛けが大切だと思われる。しかも、実際のなかに無思想的に陥穽しつづけることもできないとすれば、何としてでも理論と実践との関係を処理して置かねばならない。考えれば考えるほど、そして厳しい社会に對決してみればみるほど、理論と實際との調和がむずかしい問題となってくる。

学者に理論をまかせて置き、一般人は現実の要求に従って事を実際に処置するというわけである。理想と現実を、結局処世の方法として噛み合せてゆくプラグマティズムの考えである。ここにすれば理論は人生にたいする侍女で、真理や正義よりも、社会の福利と便宜とが優先する。

八年前になるが一年間ハーヴァードに滞在して法学校の空気のなかに生活してみても、米国には理論がなく、実際がある、実践的な要請に迫られて理論的な反省を試みる余裕がない、という感じで充たされていた。功利主義の国のイギリスでは、實際に對決して、これを処理しつづつても理論と絶えず結びつけて考えつづけて行くやり方の方である。欧州では、大学は依然として理論中心で、その応用として實際を研究するという方法のように見うけられた。もっとも米国に理論がないというのは、甚だしい独断で、ただその傾向が強いというふうな印象だったといまでも思っている。

そこで日本だが、自分が理論だとしてたて奉っているものは、すべて外国からの伝来のものなので、立派にまとまっただけはいるが、自己の手で自

分の生活から造りあげたものではない。外国に敗けたくないから、模倣追隨の形で理論を借りてきただけであって、本来の自分の生活は別にあるわけである。理論は西歐化、すなわち近代化促進のための道具だった。従って理論はぎりぎり結着のところに、自己自身とは別なものであり有難く大変結構なものだろうが、生活の呼吸は違ったやり方ではないと落着かないという始末となる。

幸に日本には仏教思想が植えつけられ、「彼岸」という現実を超越した理論をいたたく思考方式が存在する。そこで、学問は大学に、宗教は教会に、法律は裁判所に、芸術は博物館に、河向うから借りたものはそれぞれ祭りあげ、そして生活の實際は伝統的な経験とときたりで送っている有様ではないだろうか。「彼岸」という形で、尊敬するけれども学問は神棚に飾っているやり方となる。曲学阿世なんという学者を軽蔑する表現がでてくるどころなど、学問は神棚だけにとどまれと言っているようなものである。

世界の変革期にあたって、学問を神棚に飾りつけて置く余裕などないわけで、實際社会は科学的研究の成果の援助を待望しているし、そうしなければ今後の日本は立ってゆかないと思う。實際から理論を引きだしさらにその理論から實際を指導してゆかねばならないだろう。歴史のテノンポに即応して、理論と實際との協力をはかることの必要は、今日ほど大なるときはないであろう。新しい意味で、実学が要請されている。小樽商大も古くから実学の殿堂として大きな存在を持ちつづけてきたのだから、この世紀の要請に答えて、大きな実学を創設して貰いたいと熱願する。それには窓を開けて政治学的な空気を吹きこめさせる工夫もなければなるまい。次は西野嘉一郎さん(一橋大学教授)

何も彼も半端者

の弁(H君へ)

福田 誠

(大八)
(神戸支部)

苦米地先生が八十歳の御誕生を迎えられ本當に御芽出度い。心から御祝を申し上げたい。

君にはこんな覚えはあるまいが、先生の御座す正氣寮で室の前に草履をキチンと並べて在室偽装をやった悪戯もそう昔のように思えない。色褪せしアルバム繰るや秋日向

まこと

僕が終戦直後から十年ボロ船を抱えて苦勞して来た会社の椅子を惜しみなく棄てて、あの新興宗教団体に身を投じた心境は未だ君には謎として残っているだろう。当時あちこちから意見や忠告を受けた。しかし信仰生活の修行が如何に厳いし辛いものであることが身にしみて判って居りながら、大きな力に引ずり込まれたというのには斯くあるべき因縁がよくあったからである。事実酔狂や自分本位の現世利益欣求といった欲得からは余りに勘定のあわぬ行であつたからである。

今から思えば確かに大きな寄り道になつて仕舞つた。先祖供養懺悔滅罪、報恩感謝の素朴な信仰とはいえその実践に身を以てて馬車馬のように体験したことは反省未熟なものに過ぎないし、悟り等大きな口はたたかぬが、体験者のみの識の一つの幸福感を持ち続けていられるのは有難いと思う。現在でも教義に寸毫の疑惑を持つていないし、生涯必ずや導きの灯となることを信じて疑わない。只残念なことには此処も人間の醜い面を持つ集団であることが判り教団首脳地位から身を引かざるを得なくなつたことだ。三年でケツを割って仕舞つた訳だ。もしこの儘宗教的行動を続けていたなら僕の半

生には可成の変革があつたと思う。その後は御承知のように昔の事務所と関与しているが、之は連航の連日である。

その間君とはよく碁を打った。得たものは二段の免状だけで君には屢々打込まれたものだ。最近はこの好きな碁も医師のすすめで久しく石を握っていない。これを転期に見る俳句から作る俳句の楽しみを覚え初めたと云えば之亦驚きであろう。然し僕の俳句の発芽ともいうべきものが四十年前も前であつたのだから、随分長い冬籠りであつたと思えば夫程不思議でないかも知れない。君と一緒に鈴木に入社し、下関時代当時まだ有名でなかつた俳人日野草城氏のもとに句の添削を乞ひに行き、その句は忘れたが賞めて貰つたことや門司新報の吉岡禪寺洞氏の選に入り活字となつたといつても随分な間延びだと君は定めし滑稽視するだろう。いま僕がいたいことは句作を初めてから人間の生活や風俗が、どれだけ自然に深いつながりがあるかが感ぜられるようになったこと、四季の現象を見逃がすまいとつとめればつとめるだけ、その底にしみじみとした人間の心持が味わえ養えるようではこそ道心であり、宗教であり、無論強烈な文学であると考へさせて貰い何とか一日を豊かにしようと思がけています。またまた半端に終りそうなるものが身辺に一つふえた。笑ひ給う勿れ。人生とはよくよく半端なものに出来ているのだろうか。

在紐育思い出の断片

津久井 七雄

(大一一五)
(東京支部)

太平洋戦争勃発直前の昭和十六年十一月龍田丸で紐育から引揚げて来てから約二十年振り再び紐育へ駐在取締役として赴任した。在勤二年半其思い出の一端を綴ろう。

先ず緑丘支部は当時会員二十数名何れも重要な地位につき日米貿易発展のために活躍して居られた。また日本クラブにおいても当時私が会長住銀の滝沢君が副会長堀口君が事務局長、現在支部長の宇佐美君もクラブ実行委員の役職にあり、日本人社会のために骨折りになつておられる緑丘人の日米親善のための活躍振りも目覚ましい。苦米地先生、木曾先生、佐々木、進藤、加地、竹内(隆)サン等の諸先輩が見えた折も楽しい臨時緑丘会が日本クラブで開かれ

遠く昔の小樽生活に思いを馳せたものだ。加地サン来紐の折母校に講座を寄附する議が纏り、一昨年夏「紐育支部講座」として実施された事は御承知の通り、斯うした講座を寄附する事も母校学生のレベルを一層高めるのに役立つので、各支部でも考へて頂いたらどうでしょうか。

御承知の通り米国はいま日本ブーム、我國は米国の有力なる盟邦であるので、米国民の対日感情の悪からうはずはない。何処の県を旅行しても不愉快な思いは、まず味わうまい。処が大戦前の対日感情は酷いものだった。私が一九三九年暮、日本人のあまり行つた事のないバハマ島へ旅行した時、マイアミからナツソウ迄刑事に尾行されたことが、あとで判つた時ほど不愉快な事はなかつた。マツキンソン先生が日本で旅行すると、行く先き先きで巡査が付きまとい不愉快だといふ話して居られた事を思い出して、其気持がよく判つた。またカメラをさげて旅行した友人がスパイ視されて警官にかまひ、新聞記事となつたこともあつた。當時は支那は米国の友邦、これを侵略する日本を蛇蝎の如く嫌つており、現在とは全く正反対であつた。只今度の滞米中に厭な思ひをした事が一度だけあつた。

それは社会党の浅沼氏が刺殺された直後、桑港へ出張途中のジェット機の中のことであつた。一人の紳士風の男が壇上の浅沼氏と暴漢の写真の写つて居る新聞を私に突きつけて日本という国は何と非民主的な国で

あるのか、話せば判る事を何故暴力に訴えるのかと詰めて来た時であった。誠に不愉快でもあり失礼な男だと思ったが、また恥しい限りであった。しかし昨秋米国でもケネディ大統領の暗殺また其容疑者をリンチ的に多数刑事の前で射殺するという事件は模範的民主主義を誇りとする米国民にとって晴天の霹靂的ショックであり、米国民主主義史上に大汚点を印した訳であるか、何処の国にも心得違ひの狂人的人物はいるものである。こうした事実にも拘らず我々は米国の民主主義には学ぶべき点が多々ある。権利のみを主張して義務を軽視する誤ったままの我民主義思想は戦後の徳育教育の欠如と共に誠に憂ふべきものがある。最近の非行少年の激増もこうした結果の一つの現状である。特に家庭及び学校において反省すべきであろう。

私は紐育の遊園地へ入場を待つ行列の前へ割込んだ子供の尻をたいて戒めた母親を見た事があるが、日本でもよく見受ける子供を電車の中へ早く飛込ませて座席を奪うようけしかける母親のあることを思えば日本の民主主義への道は前途遠慮であると思う。二重橋前や横浜の演奏会場前での踏殺事件等は静かに自分の順序を待つ訓練の欠如で先進国に余り例を見ない事だ。若し大晦日のニューヨーク、タイムスクエアの人波が日本人のみだったら、こんな事件が起っていることは間違いない。

日本へ時々来る外国人は東京の変わり方の早いのに驚く。ことに建物等

は一年も経ないうちに、どんどん出来る。紐育の街は戦禍を受けない事もあるが戦前と余り変らない。ただ新しい高層ビルはダウンタウンよりもミッドタウン東側に多く出来ている。チャイナタウンの東側にあったスラム街も、いまは市の手によって紐育特有の五階建の家屋から二十階の建物になって道幅も広くなり、緑地帯や子供の遊び場も出来て、この街を歩いても、昔のようにグレン隊風の男がウヨウヨしていることもなく恐怖を感じなくなつた。東京も狭い土地なので事務所も住宅も耐震耐火の建築技術の進んだ今日一段と高層化アパート化する方向に指導するように、当局の配意を望みたい。こうすれば通勤問題や子供の遊び場問題解決の一助ともなる。

また以上の外、地下鉄やバス内の喫煙問題 Jaywalk の問題等言及したい事も数々あるが、紙面が許さないので省く。

扱て最後に米国の国際收支改善の努力の一端を紹介しよう。輸出振興、在外軍事情費削減、低開発国援助の肩替り、シツプアメリカン、フライアメリカン等国際收支改善の為異常な努力を払っていることは御承知の通りである。私の渡米した年は Golden Sixty といわれ、景気向上には明るい希望を持たれて居ったか予想に反し Sloppy Sixty となつたため強力な対策が採られれば海外旅行の土産品等は旅行期間により百ドル、二百ドル程度を無税品扱に改められた。日本では八条国移行に伴

まんびつ五人集

い、漸くこれが問題となつて居るが日本のように沢山無税で持込ませる国は少ない。今回の無税品範囲の縮小は当然である。

また米国では海外へ社用で旅行する者もサーヴィスのよい外国航空機を利用したいと思つても、会社は米国内航空会社を利用せしめて居る。日本でも官民共々積極的に日航を利用すれば我が国の国際收支改善に役立つのみならず、日航の外航部隊も一層充実する事となる。

我が国際收支の前途が心配されている現在、余り応揚に構えておつては貴重な外貨準備の早期喪失を招く事となる。

次は岡田政次郎氏(昭二)にお願ひします。

俺は健在だ

野村 鉄太郎 (昭一四)

(横浜支部)

とたんに昭和十一年から十四年までの三ヶ年間の小樽の生活がなつかしく頭のなかを走馬燈のように廻り出し、気ばかり若く成つて P・C の襟章をつけた詰襟服のくりくり坊主学生に立帰つて来るのだが、さて何を書いて良いやら。

丁度一年に入つた時、合併教室で始めて南先生の経済学を教えられたのだが、小生にはどうも良くわからぬ。居眠ばかりして居て、結局試験の時何を書いて良いやら。

いまでも一つ覚えて居るのが、機械は資本なりや、という問題、隣ではせつせと書いて追加の紙を請求しているのに自分の用紙には僅か申訳的に二、三行が淋しく書いて有るだけ。学期末には御多分に不潔所謂つかんでしまつた。

所が二年になると手塚先生で、当時はなやかな、数理経済学。さだの「だの全手つけようがない。経済学とはむづかしいものと見つけたらりて恬然としているわけには行かない。病気で十二月の追試を受けられなかつたので、これをつかんだら落第だ。

確か雪晴の日曜だつたと思うが、八木(光)君が、一緒に手塚先生宅へ行つてくれて、とに角先生に衷情を披瀝、先生は別に何もいはれず笑つておられたが、後で点をつけるに一方ならぬ御苦勞を為さつたと思ひ、いまでも汗顔の至り。後年私が揚子江河畔の一小部落の警備隊に居た時、同文書院の学生が一週間位支那の農村調査に来て、その時々々と

先生の話を聞きました。が遂に其後お目に懸る折も無く誠に残念に思つて居ます。

ところで小生目下横浜で機械設備の据付工事という小企業を営んでおりますが、家の方は十九年以來ずっと小田原に住んでおります。当方が顔を出さないで、井の中の蛙なのかも知れませんが、どうも十四年の諸兄の動静があまりわかりません。

緑丘もタテの連絡は大変立派ですが、どうか緯の連絡が密になるように誰か十四年の方でリーダーシップを取つてくれると良いのですが。この機会を利用してお願い致します。呼かけがあれば小生も出来るだけの事は致します。

尚年文末葉目さんには御多忙の所この編集にはなかなか大変な事と存じ深く敬意を表する次第です。以上只紙面をうめただけで全く恐縮至極ですが、次に永い間の法廷斗争の末、冤罪晴れて、再び雄飛の日を待つ、国鉄調査役の福地貞雄君にお願い致します。

サラリーマン道徳

松尾 正路

学生の就職事務を扱つたことがある。会社あての推薦書類には思想健全、性格は明朗誠実、調和的で実行力あり、趣味はスポーツなどと変わりばえのない推薦文句を教えきれないほど書いた。もつと本人にびつ

たりするような用語はないものかと国語辞典をしらべてみたりしたが、大同小異で、結局同じようなことになつた。

マルクス学説を信奉する学生の推薦状に思想健全と書いて苦笑したこともあつたが、私のウソがウソでなかつたことは、今日、現実的に、ほとんど例外なく証明されている。こんな場合、本当のことを書いて学生就職口と生活権を奪うのは、警法違反でないにしても、教師の良心に違反する。

幸い、このごろの会社は学校の推薦状などてんで信用しなくなつたらしい。会社自身が科学的(?)教育的に目を開いて、会社学校を持つようになつた。当然である。教師にウソを書かせ、学生にウソの技術を教えるのは、教師ではなく会社だから交通道徳があるようにサラリーマン道徳というものがある以上、会社が会社学校を設けて教育責任をとるのは当然だろう。

それなら、学生のいちばん大切な勉強の時期に、静かな学園へ乗りこんで学生採用の争奪戦などやつてもらいたくないのだが、この採用時期の協定だけは、どんなにお願いしても会社が守ってくれない。官憲の学園侵入は学園自治の侵害だといつて大騒ぎするが、会社の侵入だけは、学生も学校側も静かにしている。その弱味につけこむのもまたサラリーマン道徳の一つだと思つたら、おそろしいことだと思つた。

まんびつ五人集

次頁の下段へつづく



日立商品特約店 日本電気機器株式会社

取締役社長 天野 雅 司 (大正15年)

本社 サクラバシ日立シヨーストール
 大阪市北区曾根崎新地2丁目50番地
 電話大阪 (361) 8 8 7 1 番 (代表)
 大阪 (361) 4602番 (夜間専用)

大阪昭和十三年同期生会

昭和十三年卒の故を以って、旧臘十二月十三日の金曜日夜、大阪地区同期生会を大阪のドマシオン中、本町四丁目近くの大阪会館グリルで開催した。

最近大阪に栄転して来た藤城敏雄君（大成建設大阪支店次長）及び納富昌幸君（帝昌佛大阪営業所長）の新顔を交えて、大阪会館自慢の欧風料理フルコースを食べながらゆっくり歓談した。予て病氣療養中であつた木村章三君も、薬石の効あつて極めて元気な姿を見せた。集まつたサムライ共別掲の通り十一名、仲々気の強



山家・岡部



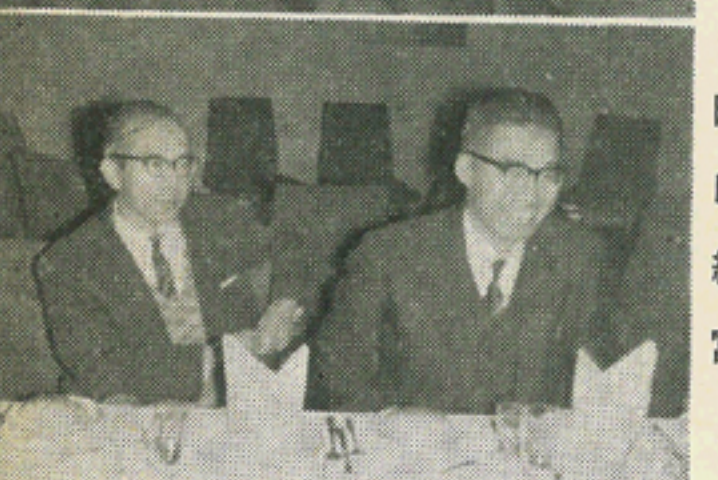
藤城・志摩



西谷・加藤



若山・中川



田口・納富

岡部武雄君こと、岡部のオッサンは東陽商事のご主人としてますます重厚さを増してきた。

山家専務こと利典君は、田中弥商事の大専務として貫録充分、しかしやや細身のツルを思わせるスマートな中年紳士である。

藤城敏雄君は、今や天下の大成建設の押しも押されぬ大阪支店次長に榮進し、関西建設業界を掻き廻わしてやるとファイト満々である。

納富昌幸君はこの程、古巣大阪に同社大阪営業所長として就任し、東京で鍛えた大阪の土性骨を見せてくれると張り切っている。

田口敏夫君は日本精臘大阪営業所長として、いよいよ落着きをまし、強い度のメガネの奥にキラリと光る眼光にはキビシイものがある。

中川春雄君は相変らず能弁多弁、意気発刺たるものあり。

西谷作太郎君は三芳園経営者として、われわれ同期生のトシガシラとしての兄貴分の貫録充分、ヤンチャな弟共を温顔をもって見守っておつた。

加藤保英君は三井船舶大阪支店に永く、ゴルフの腕前もスバラシイ上達ぶりとのことである。

志摩角美君は、日本製粉大阪工場に相変らずの勉強家。同社における将来の榮進マチャイなし。

木村章三君は、ニョウドウに石がたまる病気でしばらく入院加療中であつたが、その石がヒトリでにとけて下りたようで元氣になり、本会に出席された。ビールを飲めば飲むほどよいと医者がいわれたと相らずユニモアな口達者ぶりを發揮していた。松下電器のテレビ事業部総務部長を勤めあげ、目下本社秘書室で同社高橋副社長のお気に入りであり、

昇進コースをバク進している。以上の強ものどもが久しぶりに相集まり、勝手なヘラズ口を叩き合つて、和氣アイアイお互に将来の健闘を祝し散会した。なお明年度大阪地区同期生会の幹事には、西谷作太郎中川春雄君が選任された。

出席者次の通り（順不同）

- 出席者
- 岡部 武雄（東陽商事株式会社）
- 山家 利典（田中弥商事株式会社）
- 藤城 敏雄（大成建設株式会社 大阪支店）
- 納富 昌幸（帝昌株式会社 大阪営業所）
- 田口 俊夫（日本精臘株式会社 大阪営業所長）
- 中川 春雄
- 西川作太郎（三芳園）
- 加藤 保英（三井船舶株式会社 大阪支店）
- 志摩 角美（日本製粉株式会社 大阪工場）
- 木村 章三（松下電器産業株式会社 本社）
- 若山永太郎（丸嘉機械株式会社）

—若山記—

昭和三十八年もおし迫つた十二月二十一日に支部の総会を召集することになったのです。

というのも平素お互事に追われ、また各地に散らばっているので、集りも再三思い立ちながら延び延びになつたのですが、忘年会をかたえた支部総会となつた次第です。何分あつたらしい年の瀬ではあり、尋常のことでは集りが少ないので、召集状（案

内状）をプリントして、速達便をもつて呼びかけたのですが、案内状が効いて？友遠方より来たる！という次第でした。

すなわち十二月二十一日緑丘会福岡支部（アンコールK・K内）にほど近い老舗料亭「やま利」において支部総会を開催した。最も遠来の友に、長崎から柴田栄次郎氏（六十五才）と大分から、杉原貢氏（昭和十六年後期）があり新らしきメンバー

緑丘会 福岡支部総会



- | | |
|--------------|-------------|
| 向って右より前列 | 向って右より後列 |
| 柴田 栄次郎 (大15) | 坂頭 芳 (昭16後) |
| 田中 実 (大13) | 本山 弘介 (昭16) |
| 古賀 士 (大4) | 山田 久男 (昭4) |
| 村賀 徹 (大11) | 川喜 光太郎 (昭4) |
| 馬場 義 (昭3) | 岡原 栄 (昭7) |
| 園 武 (昭2) | 原 貢 (昭16後) |

として迎え、会も一層ハツスルしたわけですが。

柴田先輩が長崎へ帰られる列車時刻の都合もあり、会員も揃わぬままに、今回母校から、この会合のためには貸与していただいた8ミリ映画（天然色）「我が母校緑ヶ丘」を上映観賞することにした。映画を観ていると、若き日の追憶があたかもきのうの如く、貴重な青春の幾年を、いそしみ、励んだ感激がよみがえつてきて、目がしらにジーンと来るのです。おそらく、私一人ではなかつたでしょう。

画面での起伏する緑ヶ丘の山ヒダの一ツツに、一木一草に懐しくもまた愛（かな）しく胸を打たれるのでした。国破れて山河ありの感傷にまで引き込まれる思いでした。冬の爽やかなスキー（スキーカーニヴァルの想い出）、紺碧の夏の海のヨット帆走、北大との定期野球試合のバツンカラ、デモンストレーションの傍若無人のふるまい、思わず画面にとけこんで鑑賞しました。

「人は想い出に生きる」とは至言なる哉としみじみ思ふのでした。さもあらばあれ、連綿たるわれら母校は創立五十周年を機として、更に躍進、良き環境に恵まれ、最新の教育施設を拡充して、しかも、伝統的教育方針を堅持もって国家、社会

に貢献する多くの英才が、つくり出されることを信じて疑わないものです。

映画が終つたとき、私は「我らの母校に栄光あれかし」と深く祈念したのでした。

やがて会員も出揃つたところで……木村支部長の挨拶により会が始られ、馬場副支部長の挨拶に次いで坂本幹事より「支部会計並びに募金報告」に併せて更に母校施設拡充のために、「寄附金追加の懇請」があつた。

引きつづき忘年会にうつり……

先づ自己紹介があり、数々の想い出話に花が咲き中でも留年（落弟）した話も年をとつた今では自慢話の一つに変わつており、盃をかきね、飲むほどに談論風発老いて？ なお緑丘魂を失なわぬ頼もしき面々ではある。

かくて思い思ひのかくし芸の披露に興じ、幹事心づくしの福引を引いて各自家庭への「おみやげ」ができ最後に緑丘の萬歳をいと高らかに三唱して、終始和氣あいあい裡に午後十時近く散会した。

（記念撮影後塩田正典（昭一一）八木光威（昭一四）のお二人が見えましたことを付記します）

福岡支部幹事

結婚適齢者二歩前進!

「二」に未婚の男性多し

《大阪支部相談部の活躍を期待》

緑丘会京阪神支部合同の新年懇親パーティーが一月十日にサッポロビール大阪支店の会議室で午後六時半から開催された。

開会の辞は、幕目大阪副支部長から、そして会場正面の日の丸の国旗に向かって君が代の斉唱、続いて石田大阪支部長から挨拶がニコヤカに交わされる。皆さん、お元氣

で新年を迎えられ御めでとうございます。募金も無事目標をすすめられたことに対し心から感謝します。今後さらに楽しい、そして睦い緑丘会へとその運営に努力したいので、皆様の御協力をお願いすると結び、会場一杯の拍手が鳴り渡る。

若山幹事長の指名により本日出席者中、最先輩大泉宗次氏(大10)の若々しい音頭で乾杯、パーティーに入った。

冒頭、名古屋支部から参加の森本秀勇氏、富山支部から参加の浜井清一氏(共に昭一二)を紹介する。相変らずの名司会ぶり發揮で有名な若山幹事長のアイデアで「一年男の新年の抱負を語る」と紹介して藤城敏雄(昭一三)、太田正勝、市橋宏一郎(昭一四)の三人が呼び上げられ、前に出て抱負を語る。

緑丘会 京阪神支部 合同新年懇親パーティー

1月10日



石田支部長挨拶

木村章三氏(昭一三)は結婚仲間経験談をチョッピリ話す。続いて幕目編集長も飛び出て、浜林先生特集号の編集進行状況を発言「若い詩人の肖像」(伊藤整著)をよみ直して、母校の風景、恩師のプロフィールをはじめ卒業生の沢山の氏名を発見して感入であると感じた。「若い詩人の肖像」をよんでない人のために新潮文庫の購読をすすめる。

パーティーもさらに賑かさを加えてきた。「結婚適齢期は三歩前進」が若山司会者から叫ばれ、ブラリと未婚の男性並



校歌合唱の椎名先生と石田支部長(左)



ホステスを紹介の若山幹事長

【出席者】椎名幾三郎 元教授、大泉宗治 T10、四谷宗義 T11、宮地邦介 T11、大竹政雄 T12、大久保鹿式 T12、田中弥三郎 T12、石田平八 T12、堂城不二人 T12、榎山三郎 T12、玉井英雄 T12、安在七郎 T12、三浦儀三郎 T12、水垣敏正 T12、小島貞三郎 T12、会津幸雄 T12、大島三郎 T12、幕目英三 T12、森本秀男 T12、浜井

東京支部 新年懇親会

九十二名の出席で会場一杯

恒例の新年懇親会は去る一月十八日銀座七丁目のサッポロロビヤホール二階で、かつてない九十二名出席という盛大さと楽しいふん囲気の中に行なわれた。

ともすればこの会合が従来いわば「お年寄」の会という風に解釈されてか、若い層から敬遠される傾向があったが、今年

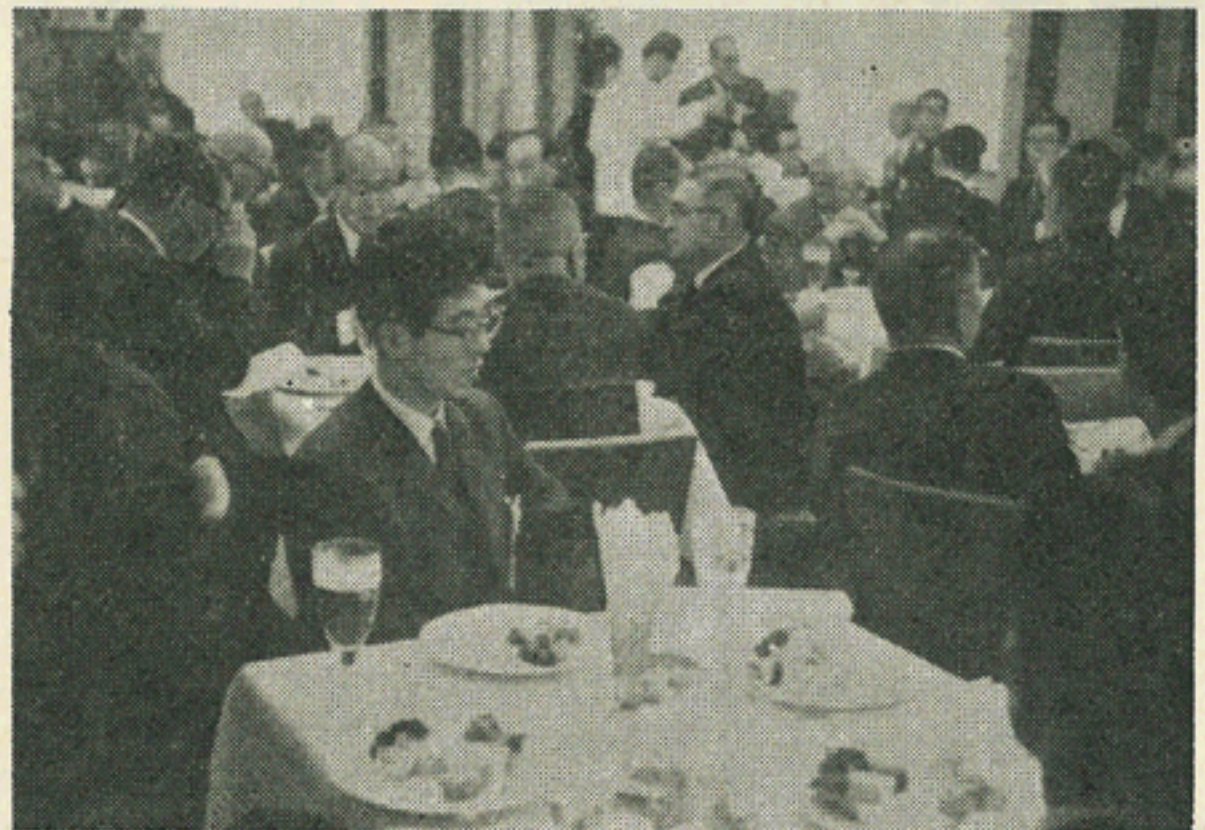
- 清一 S12、木村章三 S13、山家利典 S13、藤城敏雄 S13、若山永太郎 S13、太田正勝 S14、市橋宏一郎 S14、小野寺慶郎 S17、青木慎吾 S22、和田昌雄 S23、桜井純一 S23、勝股一哉 S29、松尾俊彦 S34、角响 S34、前迫敏也 S35、広海一四郎 S36、小林裕 S38

いた関係各位に心から謝意を表す。昭五会・全国大会を塩原温泉で旧臘十一月二十三・四日の連休日に、東北本線塩原温泉・古市・龍田館で全国大会を開催、家族同伴組もあり盛大な宴が催された。

昭九会・六月七日―八日 熱海で三十周年記念大会 緑丘学舎を巣立って丁度三十周年、熱海、亀甲萬熱海保健荘で全国記念大会を開催の案内状を発送。(会費)東京周辺在住者 五千円 右以外 在住者 三千円 夫人 千円 家族アルバム、名簿の作製を準備中。(幹事)諏訪・渡辺文郎(東京)



(会場風景)



加地貿易株式会社

取締役社長 加地 幸一 (六十二)

東京都中央区銀座4丁目5番地 (明裕ビル内) 電話 (561)7971番(代表)(535)2600・2606・2620番

大阪支部

二月度十日会

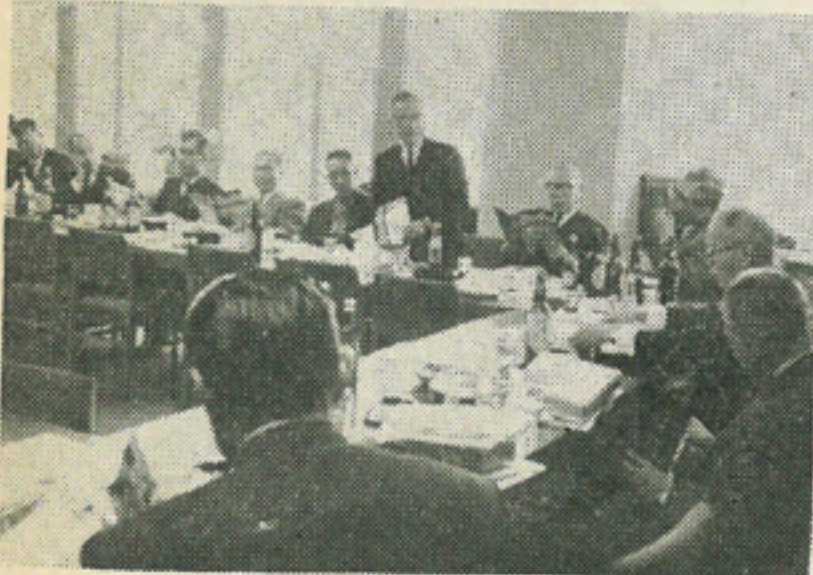
各社PR会

二月度の十日会は各会社のPRをする会ということで、自社製品を持ち込むことも可という異例の緑丘昼食会であった。

遠く京都から小林象三先生や関西学院から椎名先生も参加された。

墓目副支部長からPRの前に人事異動PRをはじめると一言、大阪支部幹事長若山永太郎氏が丸嘉機械株式会社専務取締役に就任した旨を告げる。(しばし拍手)

若山幹事長「今後共よろしく」と挨拶して、母校経済視察団の見学会社について新緑関係は困難なため、



これに代る他企業を選択することに ついて意見を尋ねたところ、杉山昌作氏(日本製箔社長)より造幣局の見学を交渉していただき直ちに纏まる。続いて本年度卒業生の就職状況を発表し、名古屋十日会の復活も紹介する。

今日のPRには日電家庭電気株式会社(天野社長)、日本製箔株式会社(杉山社長)、シオノギ(墓目資料室長)、日本生命(三浦監査部長)、丸嘉機械株式会社(若山専務取締役)、東海銀行(服部課長)、北海道銀行(設立委員広海一郎)等よりパンフレット、製品サンプルの提供があり、自己紹介を兼ねて会社のPRを行った。時間五分以内、但し超過分に対し一〇〇円という制限をつけた。日電家庭デンキ竹中君は名調子で、日立クーラーの説明に始ま

る。実方大阪市大教授(昭二)は小樽の母校へ集中講義に行つての感想を次のように紹介した。「小樽の学生の集中講義の試験答案を見たが仲々優秀である。学校の研究費不足は先生の研究に支障をきたす。研究費一人一万数千円では一冊の本さえ買えぬ状態である。研究室らしい研究室もなく、一日も早く新研究室で研究を願いたいものであり、研究についてチームワークが必要でないか」と。次々立って自己紹介やら製品紹介に力を入れ、日本製箔杉山社長サンはアルミホイルの価格までも現実的に当って親切な説明をされる。田中弥商事山家専務五分超過覚悟の積水化学の製品説明に努める。

小林先生は自己紹介の他に葉は日本新薬、家庭電器はナショナルを紹介、椎名先生は関西学院卒業生就職斡旋をして一順した。

最後に石田支部長より「緑丘会のP・Rの尊さを強調、今後も相扶け相補うよう努力しよう」と結ぶ。

本日の出席者は、小林先生、椎名先生、大久保鹿式、杉山昌作、天野雅司、実方正雄、服部奎吾、竹中正親、大竹政雄、宮地邦介、畑信太郎、樋山三郎、田中弥三郎、山家利典、広

海一四郎、和田昌雄、黒羽秀夫、細川信四郎、石井登、若山永太郎、墓目英三であった。

十二月度十日会

三十八年度最後の十日会で、富山支部より神沢重治氏(大一一)を迎えて富山支部の近況を聞く。

大竹政雄(大一二) 墓目英三(昭一一) 広海一四郎(昭三六) 石田平八(昭二) 小島貞三郎(昭六) 八尾勝三郎(昭一二) 樋山三郎(昭三) 滝沢中(昭三) 喜多村久盛(大一二) 和田昌雄(昭二三) 畑信太郎(大一一) 宮地邦介(大一一) 市橋宏一郎(昭一四) 細山泰輔(昭三八) 服部明(昭三八) 黒羽秀夫(昭二) 神沢重治(大一一) 高原一雄(昭二〇) 香川清夫(大一一)

富山支部を語る神沢氏



山口春生君の死を悼む

相沢正美(大一一)

山口君が一月二十八日午前三時に亡くなったという奥さんからの知らせを三十一日の朝受取った。今までもクラスメートの誰彼が亡くなったという知らせを受ける毎に淋しさに打たれたものだが、山口君の場合には三十年来の親交を続けてきた間柄であつただけに何か身内の一人を失つたような寂寥感に強く胸を打たれるものがある。平凡な言い方をすれば感無量というところである。

私が山口君と特に親しくなつたのは大阪時代からである。在学中の同君とは一年の時、Bクラスで一緒だつただけ。お互いに遠慮勝ちな一年生。それに私は正気寮、同君は通学だけに親しく口をきいたことはない。ただ同君は器用な人で殊に絵がうまくよく黒板に先生方の似顔を描いてクラスの人気を集めていた。ことにマツキンソンの似顔は正に堂に入つたもので、よく同教師の授業前に黒板一杯に似顔を描いて同教師を怒らせたものだ。

二年の時、Bクラスが違ひ三年の時も同様、それに同君は庭球部のマネージャーとなり私は剣道部のマネージャーになったので、それぞれの分担に忙がしく全く口をきかず卒業してしまつた。卒業と同時に同君は学校(伴先生)のお世話で横浜の堀越商

会へ入り私は函商の教師となつたので完全に離れてしまつた。当時の堀越商會といへば輸出産業の花形である生糸絹織物を扱かい旭日昇天の勢い。同君は間もなく選ばれてニューヨーク支店結めとしてクラスのトップを切つて海外勤務となつた。



て帰国した時から始まる。

昭和六年の秋のある晴れた午後、私は阪急前から淀屋橋の方へブラブラ歩いて行くに反対側からやってくる紳士がどうも山口君らしい。変だとは思つたが近づいていよいよ同君と違ひないことを確かめたので、一体これはどうしたのかと尋ねると言

との返事、正直の所ジョブというアメリカ語の意味を解し兼ねて一瞬ためらつて私を見て同君は事情あつて堀越を辞め日本に帰つて職を求めることとし、とりあえず商売の中心地大阪で就職したいと思つてあちこち駆け廻つて居る処だという。何はともあれ九年振りの、それも大ニューヨークからの帰朝とあつては尋ねたいこと、話したいことが山程あるので、直ぐに在阪神のクラスメートに連絡して当時北浜二丁目、全盛を誇つていた灘方の三階か四階で歓迎会を開き大いに語り合つた。外遊が生涯の宿願であつた私などは同君の服からでも、ニューヨークの香を嗅ぎとろうとソツと手を触れるほどうらやんだものだ。

結局同君は堺筋にあつた合資会社深田商會というカメラの輸入商へ支配人として入社することとなり、私はすでに(大正十五年から)大阪外語(現在の大阪外大)に勤めていたので二人の親交は急速に進行することになった。われわれのクラスメートは当時阪神間に十名居つて大抵春秋二回クラス会を開いていた。山口君はいつも話題の中心となつて在ニューヨーク当時の想い出話に皆を羨やましがる。

当時の小樽高商同窓会大阪支部はまだできておらず(緑丘会は未結成)そこで私は山口君と相談し、たまたま昭和八年の卒業で、大阪毛織に勤めており同窓会のことには極めて熱心であつた鈴木三七君も加えて支部結成の機運を醸成すべくその第一歩として支部長に一回の卒業で横浜阿部幸商店(砂糖の輸入商)の

冷暖房及び管工事全般設計監督施工

日邦工業株式会社

取締役社長 井 薬 政 市
相談役監査役 宮 地 邦 介(大11)

大阪市西区南堀江通1丁目2番地 電話大阪(30) 8 4 6 1 (代) ~ 5 番

工場 大阪市大正区南御加島町二丁目二七二番地

出張所 横浜市鶴見区東寺町七二五番地 電話 鶴見(24) 2 3 0 3 番

取締役兼大阪支店長であった品川三雄さんを推戴すべく同氏の居宅を訪問して懇請した。同氏は健康勝れずと固辞されたが、われわれは事理を尽くして断起を求めた結果ついにその承諾を得たので、直ちに同氏名で在阪の卒業生を招集し支部の発会式を挙げた。昭和九年の春頃であったと思う。会員には品川さんを筆頭に同じく一回の和山さん二回の松本さん三回の中山さん等の大先輩を始め錚々たるメンバーが集まりすこぶる盛会であった。このことを伴先生(当時校長)に報告した処、先生は非常に喜ばれて丁寧な祝辞をいただいた。今日の大阪支部の発展をみる時、今昔の感に堪えない。

山口君とは週一回必ず会うことを約して概ね昼休みを利用して御堂筋の日生ビルの前におった小さな喫茶店を利用した。ここは中心街にあることがなく、ゆつくり談話することができ二人の会合は同君が樺太へ転ずるまで欠けることなく続けられた。ことに昭和十年以後私は就職事務担当となり市内へ始終でかけるので、タキシードのジャケットを学校から与えられるようになってからはお互いに一層面談の機会が多くなった。昭和十二年はわれわれの卒業十五周年に当るので、二人で相談の結果、家族アルバムを作製を思い立ち東京の野沢君も発起人に加わって五名の賛成を得てネガフィルムや名刺版、手札型等のさまざまな写真を全部同君の店で中版に複製し直し一冊のアルバムが仕上がった。題字が私が

選んで「途上」と名付け外語の講師をしていた高商時代の支那語教師であった関恩福先生に書いていただいた。これは全く同君の犠牲的精神のおかげででき上ったものである。完成したアルバムを二人で小包みにし発送を終えてから改めて上六の大軌食堂で祝盃を挙げた。この頃が山口君の最も元氣な時代であった。世は既に日華事変に突入し、同君の店も大分仕事がいづらくなって来た。かてて加えて名義は会社でも個人経営と、ほとんど違わぬ店の空気が漸次主顧者と同君との意見に疎隔を来すようになり、会合の都度、同君の話は活気を失ない、職場転向の意向を洩すようになった。

私はその都度、隠忍自重を要していたが、同君の決意は少しも減退せず、たまたま伴先生から勧められた樺太人造石油の事務長に就任を引受けてしまった。もともと、いよいよ引受けるまでは私にも数回意見を求められたし、同君も、かなり迷ったのだが、現状では全然将来の見込はなし、樺太は僻地だけに家族には苦勞をかけるが(奥さんは福岡県大牟田出身)そこは辛抱してもらって数年(五、六年位と計算していた)経てば、また内地へ戻るチャンスもあるから、ここは思い切って行く事にし、家内も承知したという。同君の話に、私も、それ以上引留めもならず、消極的な賛意を表した。しかし奥さんや御子さんを伴って大阪駅を出発した時には、やはり淋しそうであった。

この結果、今迄は同業関係にあった樺人は本社の一工場となったので私は会社の勤務関係視察を願い出た処、許可されて二週間の出張を与へられた。私には勤務の視察よりも、何よりも山口君に会へるのが楽しみで、勇躍渡樺の途に就いた。戦闘機と駆逐艦との護衛を受けて無事大泊に着いた、私は翌日(八月十三日頃と記憶する)落合で乗り換へて、同炭礦経営の列車で目的地内淵へ着いたのは昼過ぎ。列車がホームに迂り込むと相沢君、相沢君ここだ、ここだと怒鳴りながら私を追いかける。同君の姿が目についた。ホームに降り立った二人は、しばし無言でただ堅い握手を交わす計り思へば十二年の同じ夏の頃、大阪駅頭でも別離の握手を交した二人が、

この平穩な生活も東の間、翌二十年八月にはソ連の空襲を受けて工場は壊滅、物資は悉く略奪、その上、工場を始め、一般民の食糧の確保や引揚げ作業等の仕事全部、山口君の肩にかかって来た(長さんはソ連兵に拉致され、責任は自然次長格の同君の上に負はせられたのだ)この間の数日は全く不眠不休で事に当たったこと、同君の性格からして推し量られるが、これが結局同君の寿命を縮めたと考へるのは行き過ぎだろうか。私には、どうも、そうと思えない。

今日こうして再会するとは思ってもよからぬ浮世のえにしというべきか。二人の胸には熱いものがこみ上げるのを禁じ得なかつた。爾後一週間は同君の宅(その頃は同君は昇進して、副長(長は技術出の長さんという人)となり、立派な社宅に住んでいた)に世話になり、一別以来の物語りに日も尚足らぬ有様だった。奥さんも極めて、お元気で五人のお子さん方(皆お嬢さん、同君はついに男の子に恵まれなかつたが、お嬢さん達は揃って奥様の美人揃いの上、頭脳明晰な女学校を、いづれも優秀な成績で、卒業している)も立派に成長して大阪時代とは見違へるばかり、厳寒期さへ堪え忍べば、こんな楽天地はないという奥さんのお話しに私はホッと一安心した。

を待っていた。ここへは二十五年の春、たまたまGHAから渡米視察団の一員に加へられて上京していた私は一晩御厄介になって過ぎ来し物語りをした事がある、しかし藤平さんも多人数の家族なので、そういつ迄も厄介になっていられない。引越先を探しているが、中々見付からないので弱っていると話していた。職の方は堀越時代同様で、同じくニューヨーク支店詰から、ロンドン支店へ転じ、帰朝後独立して貿易商を営んでいた加地君(緑丘十回)の所へ手伝い旁々働らいている。との事であったが、庭球部関係のよしみで、東海銀行の重役をしていた古関周蔵君(緑丘十一回)の斡旋で最後の勤め先となった野田商會の主としてラワン材輸入常務として入社する事となり、家も散々苦勞した末、都営住宅の現在の家に入る事ができ、やっと一安心という状態に過ぎなかったが積年の無理が重なったのと、住居が埼玉県境に近い所から深川迄の通勤で、朝は四時に起き、晩は十時頃寝るといふ過勞で身心をすり減らした結果とが重なってついに再び起きた幽明境を異にするに及んだのは、全く同情に堪えない。

を、ずっと床についていたが、今日始めて家内に扶けられながら、文字を書いたとして送ってくれた礼状が私との最後の便りとなった。その手紙は私の机の引出しに大切にしまつてある。

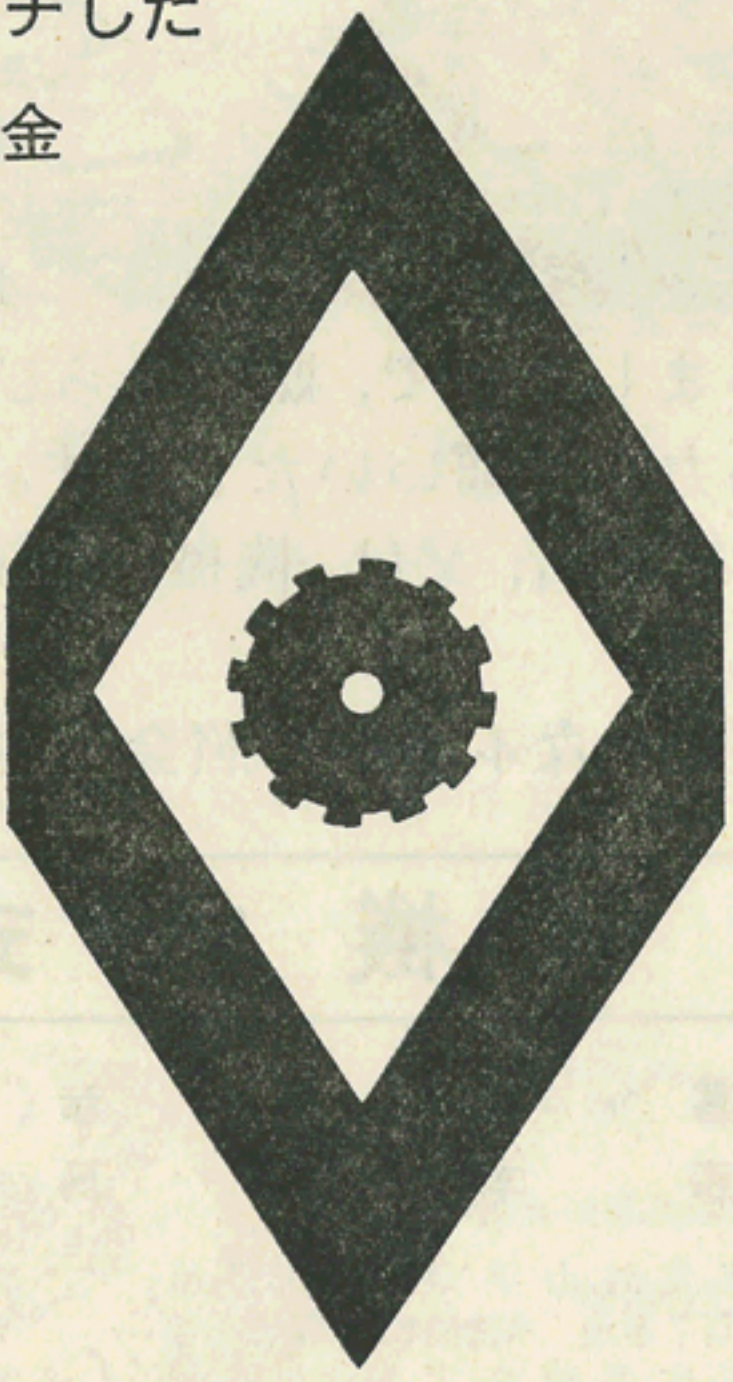
山口君、君は余りに正直過ぎた。円満な人格の内部に包蔵する正義観は時として火と燃え鋼と凝って、いつしか健康を蝕みつつあったのだ。せめてN君程のずるさがあったならまだ一、二年はじゆうぶん生き延びられたろうに。しかし凡ては空しい繰り言である。君としては優しい奥さんに、かしばかれ、五人のお嬢さんが、それぞれに良縁を得られて、晩年は、よき夫、よき父、そして、よきお祖父さんとして、可愛い孫さん達に囲まれた事を以て心安らかに瞑せられた事であろう。君の面影、君の真情は私の生くる限り、私の胸から消える事はない。在天の靈よ安かれ。(一九六四、二、一記)

編集後記

思へば一昨三十七年三月湯河原大野屋で催された、卒業四十周年記念大会に越崎君の厚意により、出席できた私が同じ級友松岡君の親切によつて、湯ヶ原から同君宅迄送っていただき、一晩ご厄介になったのが、君との最後の会見となった。また昨年秋、当地丸井で催された、りんご祭りに出品されていたデリシヤスを一箱お見舞いに送った時、その返事

☆三十八年度最終号もこれで終えていよいよ三十九年度第一号へかゝる事になった。顧みれば三十三年から貧弱な「緑丘」から、六年目にして今日のこの見事な「緑丘」に成長した事を慶ぶ。いよいよ七年目の編集に入る。原稿は山積して、明日にも編集にかゝれる状態であるが、まんびつ五人集の原稿が選れるので皆様に迷惑をかけて次第である。協力をお願いする。

近代企業にマッチした ニッセイ企業年金



- 「働く人々の夢を実現する」と好評をいただいているニッセイ企業年金には4つの特色があります。
1. 各企業の退職年金規定に応じて自由に設計できる。
 2. 税法上の優遇措置をうけられる。
 3. ご加入者が死亡退職または、中途退職された場合でも給付できるような設計が可能。
 4. お決めした年金額のお支払いについては日本生命が保証。

詳しいご相談は日本生命企業年金課へ (TEL 大阪231-0021)



大阪市東区今橋4の7

MCCの缶詰を協会役員会で試食してみた。
 この缶詰は開けてほんの少し手を加えるだけで、一流の料理になるものばかりだから、人件費、時間のロスはこちらでかなり解決出来る。とにかく調理人はもちろん経営者も是非一度試食してみたい。

全日本司厨士協会総本部会長 齊藤文次郎
 全日本司厨士協会関東地区本部長 高石鉄之助

会社・工場給食の合理化に
 必ずいせん

世界の味

■用途
 一流ホテル・レストラン・ビュッフェ・スナック
 ドライブイン・ゴルフ場の食堂・喫茶店の食堂

ロシア	ポルトガル	シニ	チ	450g/缶	150円	2~3食分
アメリカ	コン	ス	プ	300g/缶	90円	3食分
イギリス	マト	ス	ニ	300g/缶	80円	3食分
イタリア	ミート	ソ	ス	850g/缶	260円	8~10食分
インド	ビーフ	カレー	ー	850g/缶	260円	6~8食分
インド	ドライ	カレー	ー	850g/缶	350円	30~40食分
インド	スペシャル	ドライ	カレー	430g/缶	220円	12~16食分
ハンガリー	ビーフ	シ	チュ	300g/缶	150円	1~2食分
ポルトガル	マ	マ	レ	370g/缶	120円	

エム・シー・シー食品株式会社

神戸市長田区荻藻通5丁目15 TEL代(67)1245

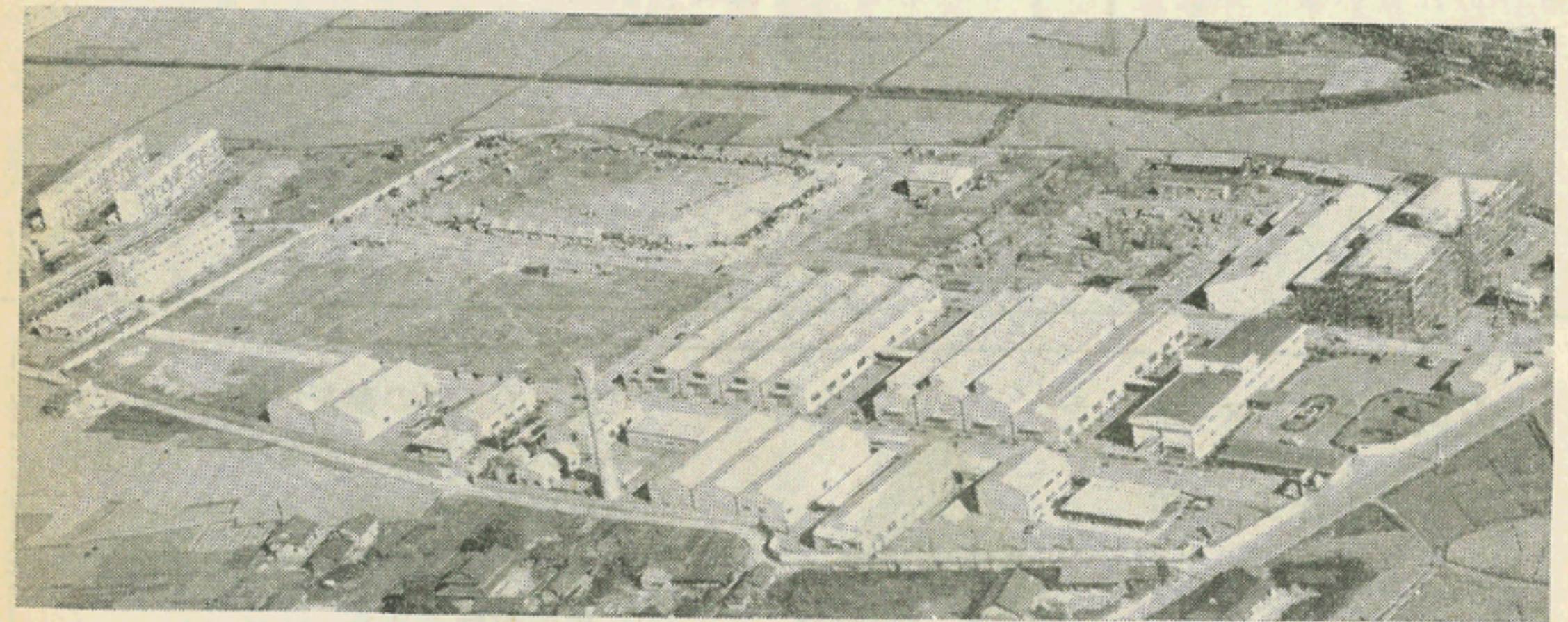
取締役社長 水垣敏正(昭5)

販売先 全国明治屋各店・鈴木洋酒店有名デパート・食料品店



中京電機の自動機械と自動制御機器

<p>○ 自動機械</p> <ul style="list-style-type: none"> 管球製造自動機械 半導体製造用自動機械 自動包装機 ストリップパッキングマシン 粉末小袋包装機 自動計量包装機 固型物定量包装機 カートニングマシン その他薬品食料品自動包装機 産業用自動機械 硝子加工用自動機械 各種自動加工、組立機 	<p>○ 自動機器</p> <ul style="list-style-type: none"> セルシリンダー エアシリンダー エアバース エレツトロパンチ・ステーク ロータリーインデックステーブル ターレットボール盤 オイラー・フィルター、レギュレーター 各種空気機器 各種油圧機器 	<p>○ 制御機器</p> <ul style="list-style-type: none"> ソレノイド ソレノイドバルブ リレー 電磁カウンター <p>○ 電子機器</p> <ul style="list-style-type: none"> 複写電送装置 各種電子機器部品
--	--	--



工場増設 新工場が稼動を始めましたので、販売ならびに技術要員を募集いたしておりますから、ご協力をお願いいたします。

大学、高校卒40才位までの販売経験者、又は、機械、電気科の技術者を希望します。

《詳細については本社・森本までご照会下さい》

CKD 中京電機株式会社

取締役社長 嘉納 照彦
 常務取締役 森本 秀勇(昭12)

本社・工場 愛知県小牧市大字北外山字早崎3005番地
 東京営業所 東京都中央区銀座東6丁目7番地 木挽館ビル新館806号
 名古屋営業所 名古屋市中村区下広井町3丁目15番地
 大阪営業所 大阪市北区梅ヶ枝町108番地 新梅ヶ枝町ビル2階

電話(小牧)3151代
 電話(542)1346代
 電話(5)8421代
 電話(362)9051代